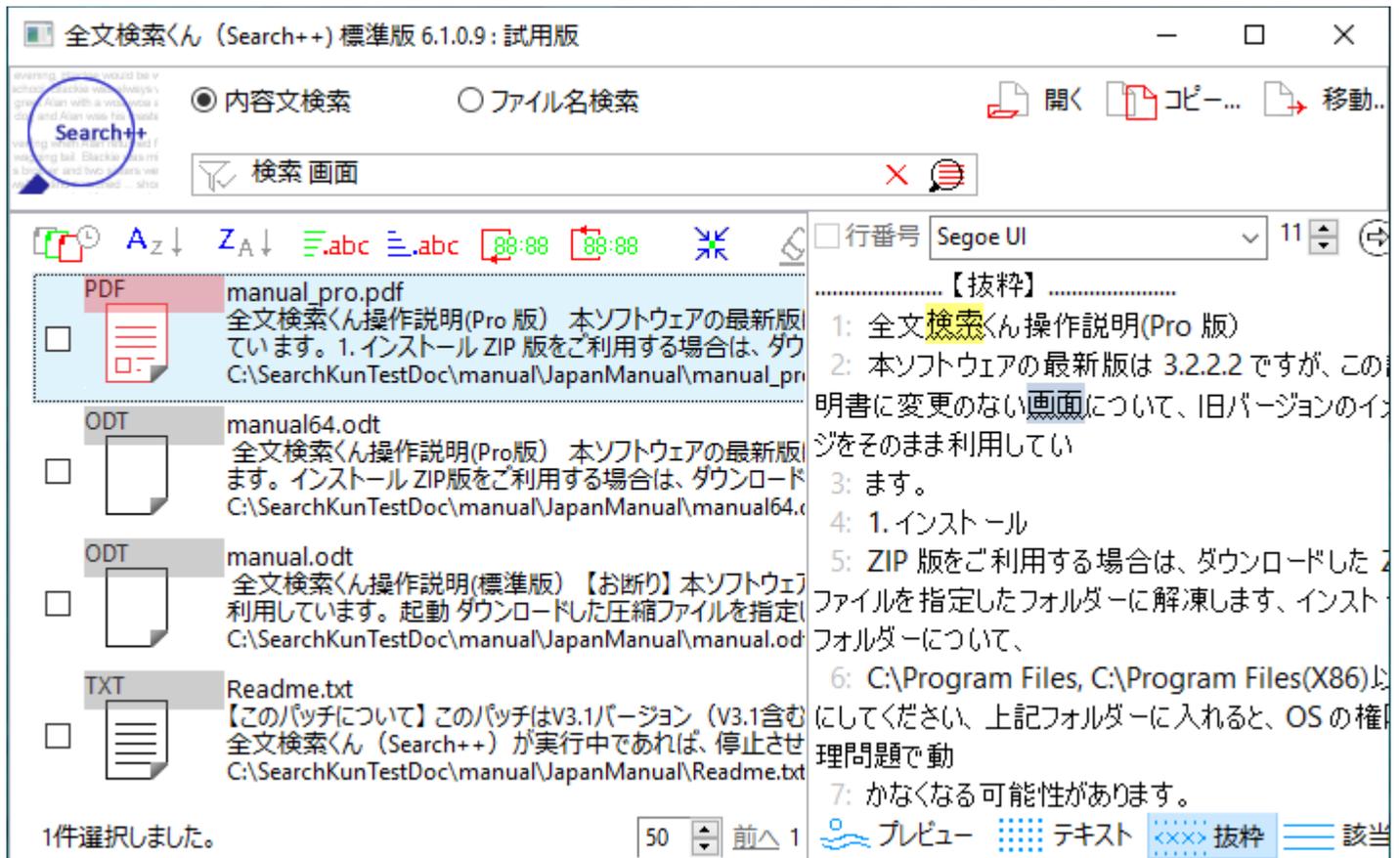


全文検索くん操作説明(標準版)



【お断り】

本ソフトウェアの最新版は 6.1.0.9 ですが、この説明書に変更のない画面について、旧バージョンのイメージをそのまま利用しています。

1. 起動

ダウンロードした圧縮ファイルを指定したフォルダーに解凍して、SearchPlusPlus.exe をクリックして起動させます。(全文検索くんのインストール先は C:\Program Files, C:\Program Files(X86)以外 にしてください、上記フォルダーに入れると、OS の権限管理で動かなくなる可能性があります。良い例 : C:\Searchplusplus または D:\SearchPlusPlus)

本ツールの複数インスタンスの同時実行は不可です。複数起動させたら、下記のメッセージが表示します。(この機能を実現させるため、本ツールは初回起動時ローカル PC に開いているポートを探して、設定ファイルに設定します。初回の実行でポートを探すため、時間がかかることがあります)

Windows XP をご利用している場合、[Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ](http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582) のインストールが必要です。(ダウンロード先:<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582>)

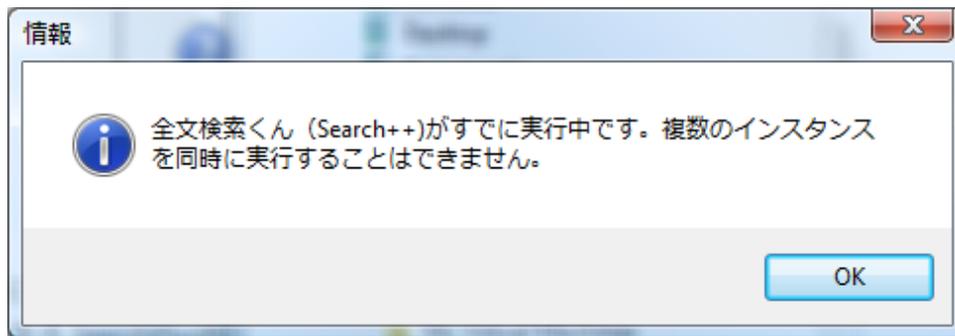
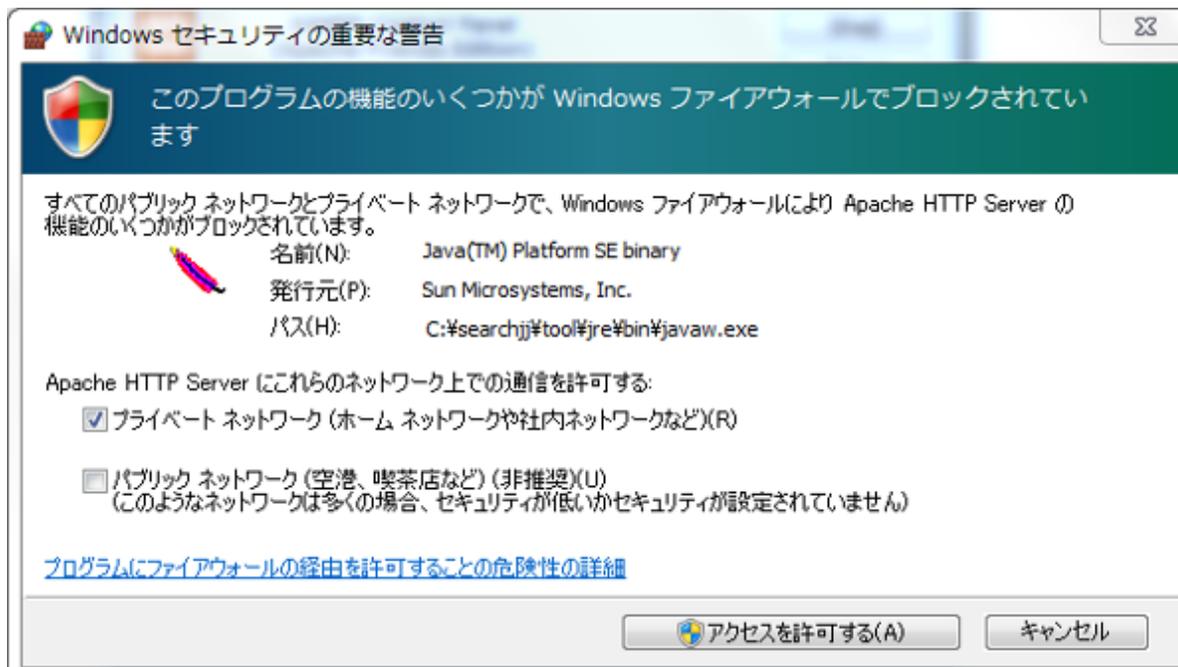


図 1 複数インスタンスの同時実行を禁止するメッセージ

Zip ファイルを展開する際、“展開されたファイルがありません”のようなエラーメッセージが出た場合或は Zip 展開した後 SearchPlusPlus.exe を起動させた際、下記のようなエラーメッセージが出た場合、OS のコード設定不正であることが考えられます。OS のコードを日本語に設定してください(<http://www.searchplusplus.jp/contact.html> の Q7 をご参照)。

v4.0.0.8 から、HTTP サーバ機能を追加しましたので、OS から下記のような警告が出されましたが、許可してください。



2. 導入ガイド：初回起動時だけの画面

初回起動時、使用言語の設定画面が表示されます。

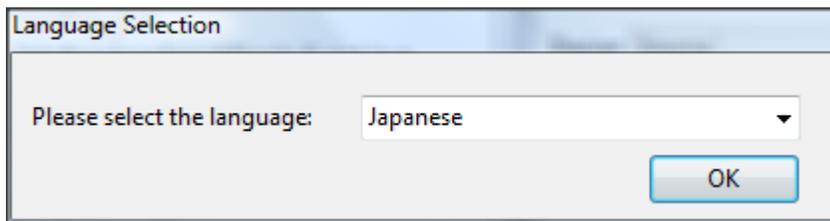


図2 言語の選択メッセージ

言語を設定したら、下記のような導入設定画面が表示されます。

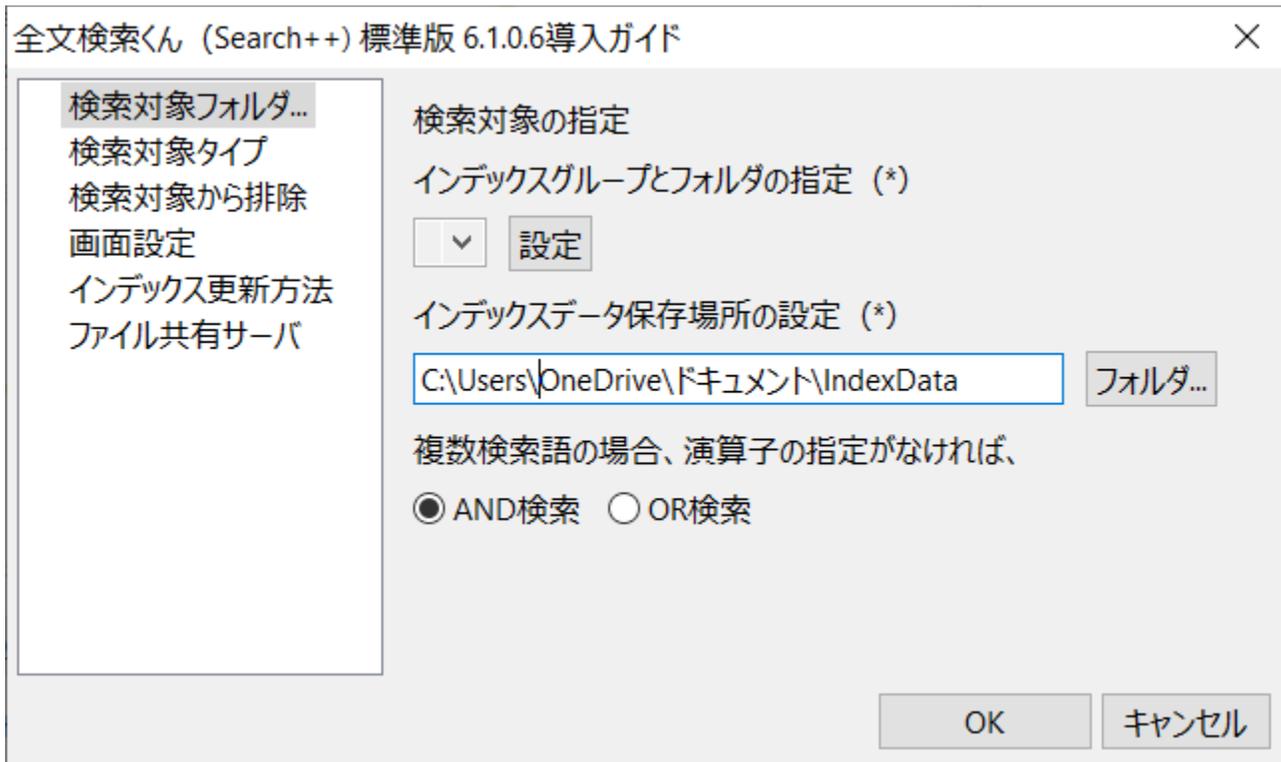


図3 オプション(検索データ)設定画面

検索対象として複数フォルダーを指定する場合は、上記画面にある「設定」ボタンを押して、図4のように、対象フォルダーの左側にあるチェックボックスにチェックを入れてください。サブフォルダーを検索対象から排除する場合、該当サブフォルダにチェックを外してください。図4で複数インデックスデータの作成が可能ですが、「インデックス名の指定」に名称を入力して、エンターキーを押せば、

タブのタイトルに名称が表示され、インデックス名の指定が可能です。画面の右上に「追加」、「削除」、「クリア」ボタンを押せば、タブの追加、削除及び設定のクリアができます。設定が終わったら、「OK」ボタンを押して、インデックスの作成が始まります。

インデックスを一時的に除外する場合、該当タブの上に「退避」をクリックしてください。退避したインデックスを復活するには、「復活」ボタンをクリックしてください。該当インデックスを再作成には「再作成」にチェック入れてください。

検索対象フォルダの指定は OS のフォルダツリーから Drag & Drop かテキストボックスに直接入力するかで可能です。

複数インデックスデータをサポートするため、メイン画面でインデックス名リストが表示され、検索対象の切り替えるが可能です。さらに、マウスをカレントインデックス名に移動すると、検索対象フォルダ情報が表示されます。

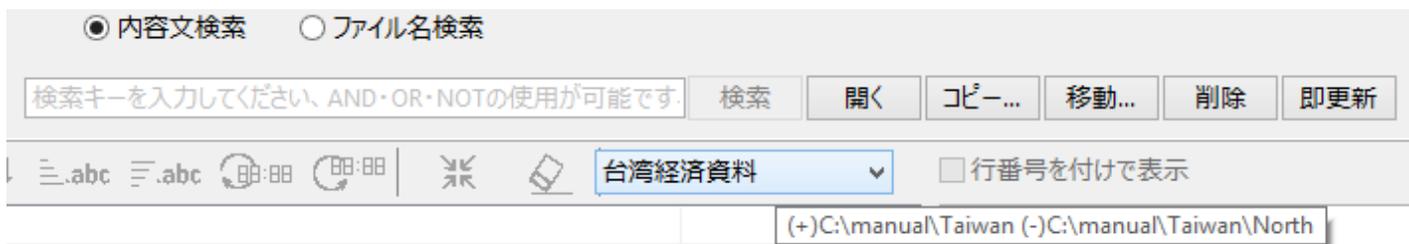


図 3-1 メイン画面で検索対象の切り替えが可能

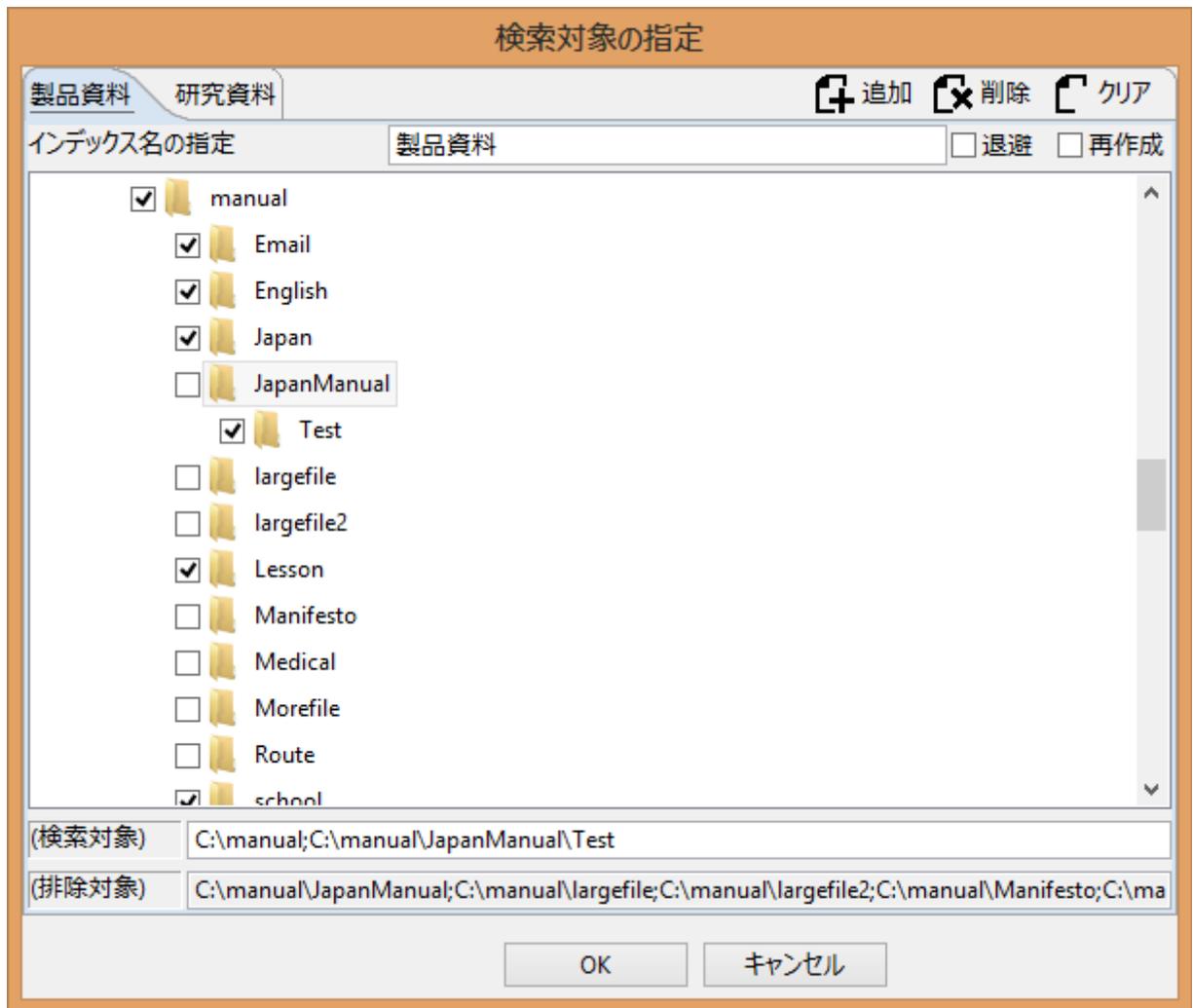


図4 チェックを入れる・外すによって検索対象フォルダーを指定・排除が可能

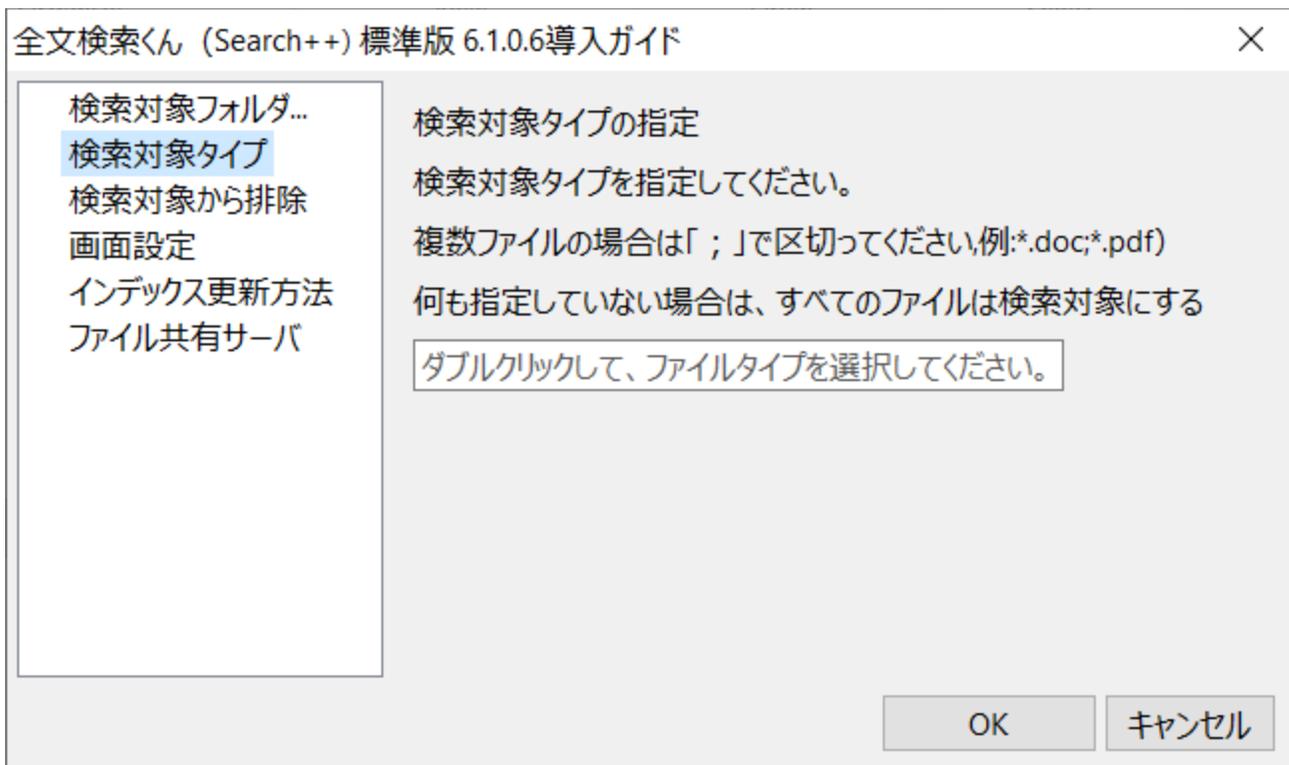


図 4 - 1 検索対象ファイルの指定

検索対象ファイルを指定する場合、図 4 - 1 画面で拡張子を検索対象ファイルテキストボックスに入れてください、複数タイプのファイルを検索するには、「;」で区切ってください。（例：*.doc;*.pdf）、何も入力していない場合、すべてのファイルは検索対象になります。

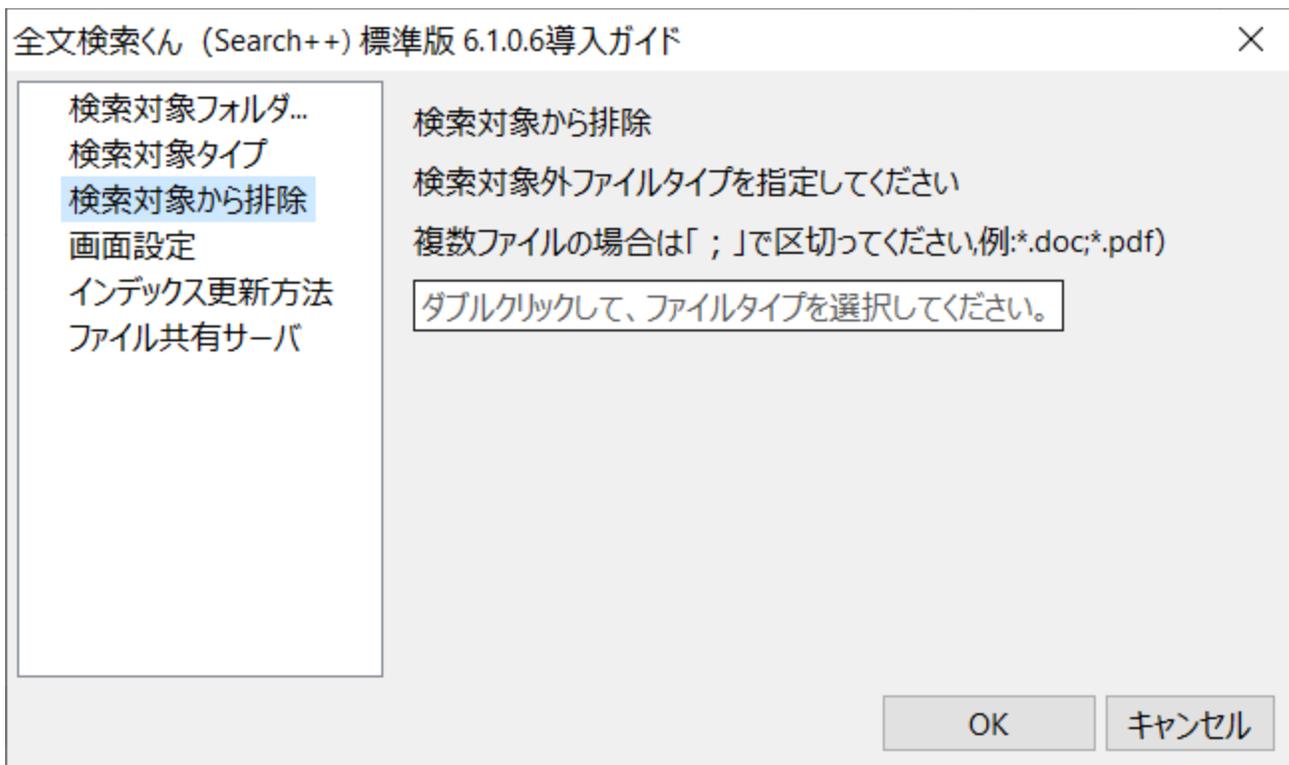


図 4 - 2 検索対象外ファイルの指定

検索対象外ファイルの指定もできます、上記と同じ拡張子をいれたら検索対象ファイルの除外が可能です、何も指定していない場合は、除外対象がないこととなります、さらに除外対象にファイルのフルパスを指定することも可能です。

Windows システムフォルダ、Windows システムの Temp フォルダはシステムフォルダなので、内容文検索の対象から自動除外しました。

本ツールの仕組みとして、各ファイルに対してインデックスを作成してから検索することになりますが、インデックスデータ保存場所に対して、デフォルトとして Documents 下の IndexData フォルダに作成しますが、図 3 で「インデックスデータ保存場所の指定」フォルダボタンを押せば、場所を指定することが可能です。外付け HD にインデックスデータを保存する場合、差し抜けによりドライブ番号が変わることがありますが、自動検知して、正しい番号に更新します。

「オプション設定」画面で「画面設定」をクリックしたら、検索画面を呼び出すホットキーの設定、抜粋表示の行数設定など指定できます。

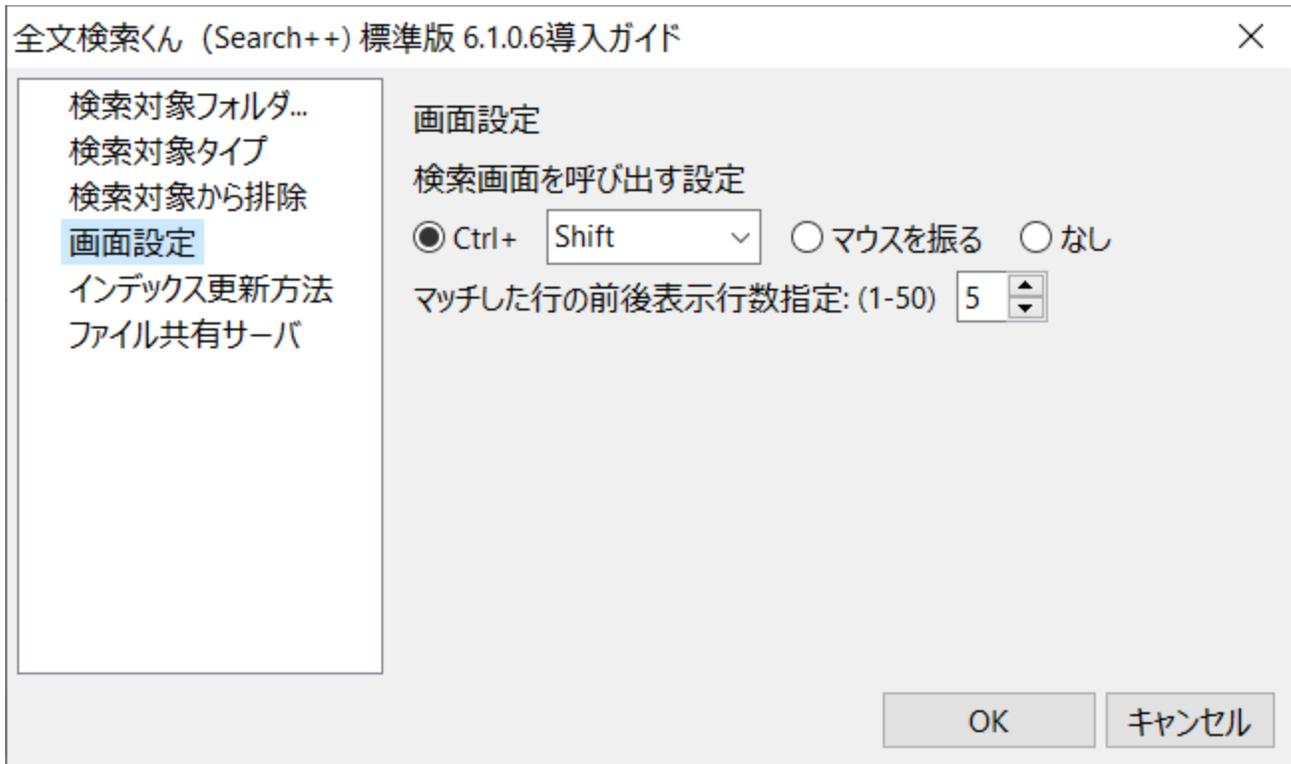


図5 画面設定

3. お知らせ画面

下記画面のように、30日間の試用期間があります、試用期間内下記お知らせ画面が表示して、全機能の試用ができます。ライセンスを入力して、「認証」ボタンを押すと、ネットワーク認証を行い、成功した場合、次回起動時、この画面が消えます。

全文検索くんのライセンス形態は複数台 PC で同時に一つライセンスの使用ができませんが、認証したライセンスを解除すれば、ほかの PC で同じライセンスの使用ができます。なので、

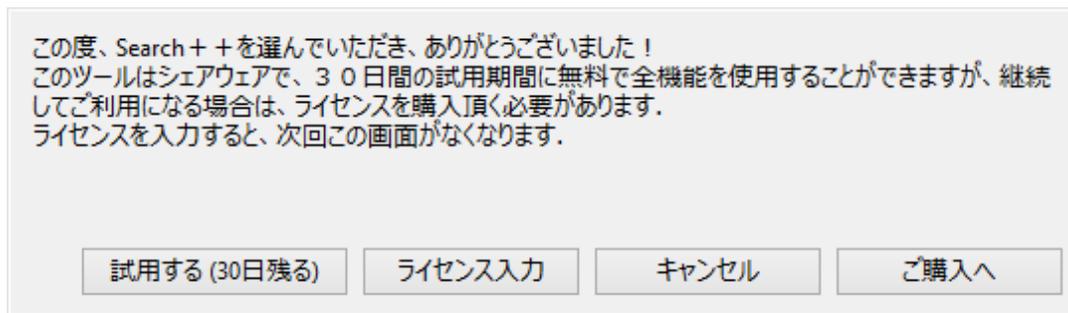


図6 試用版のお知らせ画面

4. 検索

メイン画面に検索ワードを入力して検索ボタンを押すと、検索が実行します。

検索ワード履歴が残るので、リストから検索語の選択もできます。一致するファイルがリストに表示されます。リストの下に件数、ページサイズとページリストが表示されます。ページサイズ、つまり、一ページに表示する件数を変えるとページリストが変わります。ページ番号および「前へ」、「次へ」をクリックするとページが遷移します。

ご利用 PC がインターネット接続している場合、検索の時類似語も同時に検索します。検索語の類似語が必ずあるとは限らないので、類似語がない場合は、何も表示しないです。類似語をクリックすると、該当する検索語を入れ替えて検索します。

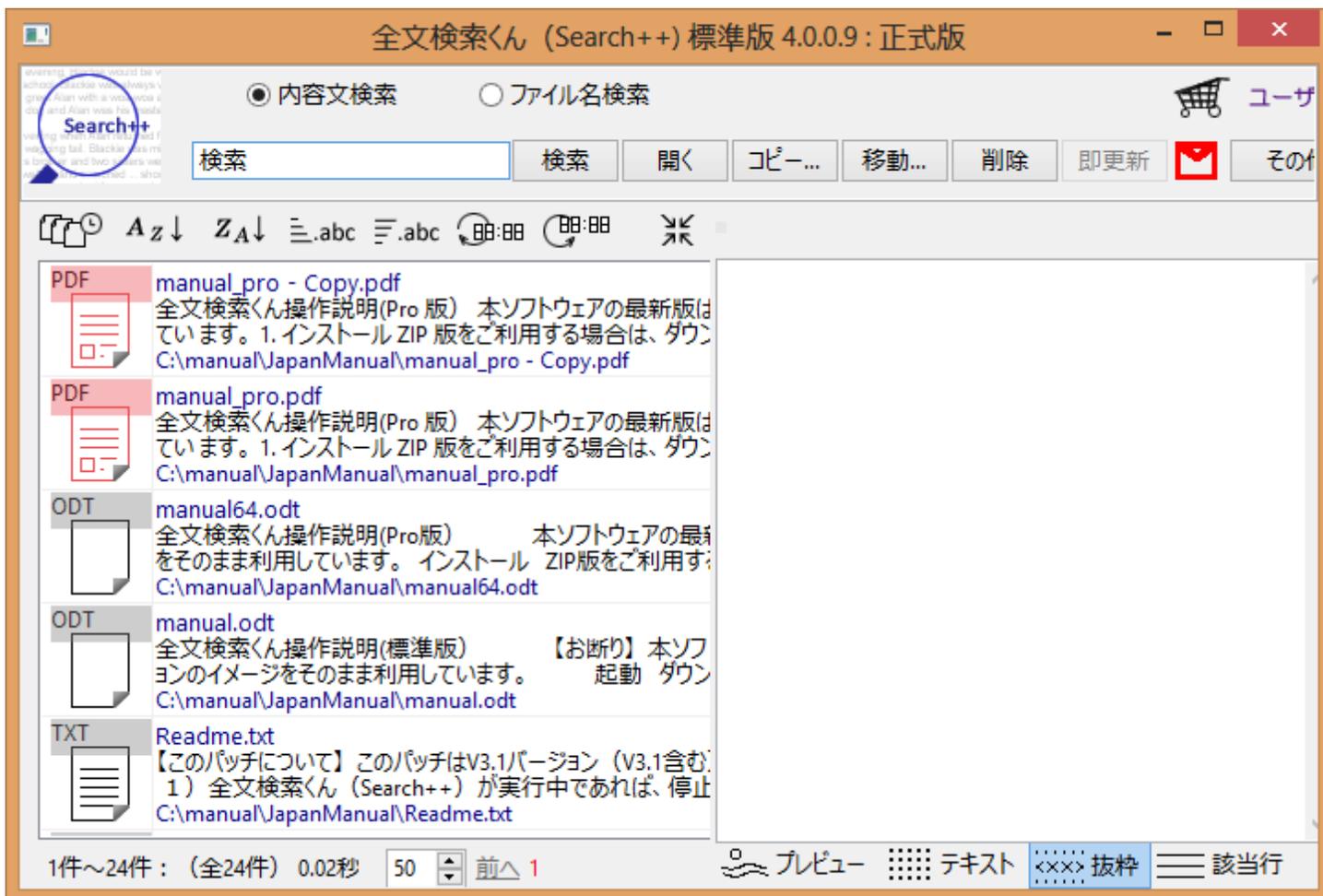


図7 メイン画面

検索対象フォルダーに対してのインデックスデータがなければ、下記のメッセージが表示されます。その場合、インデックスを作成してから検索を行います。

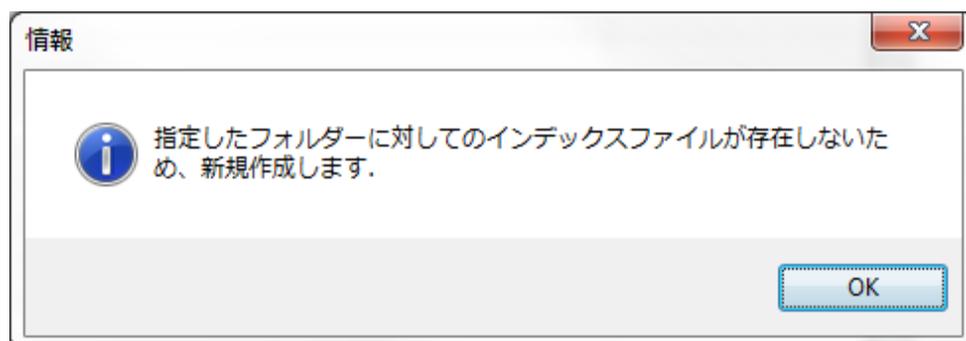


図8 インデックスデータ作成メッセージ

検索結果から言葉を拾って検索するには、該当文字を選択して、右クリックすれば、「検索」サブメニューが表示されます。これをクリックすると、検索が始まります。

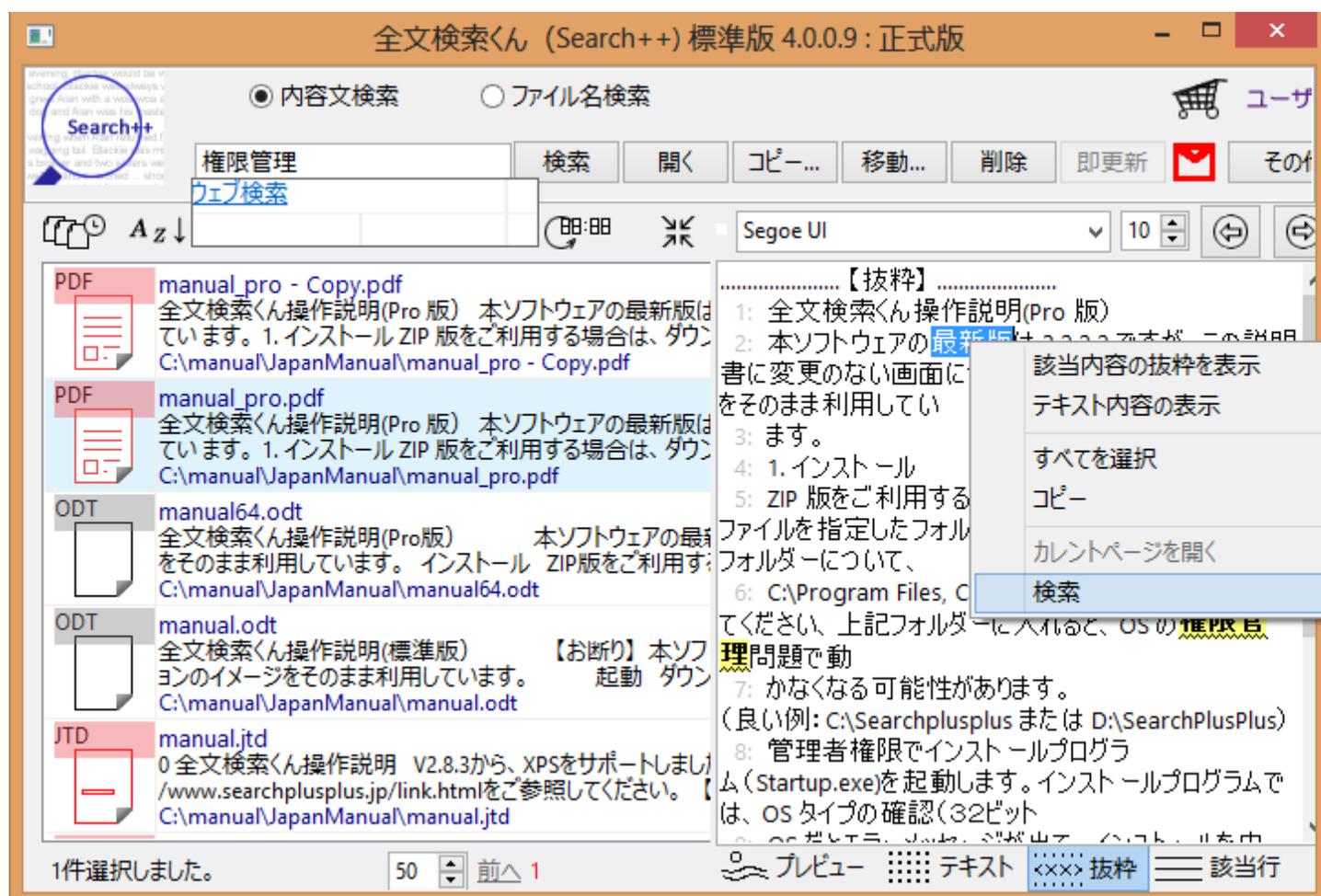


図8 - 1 検索結果からサーチキーを指定

5. 検索結果画面

検索結果画面は以下です。検索テキストボックスの下にある「ファイル名」、「拡張子名」、「作成時間」などボタンをクリックすれば、検索結果リストをソートすることが可能です。ソートボタンの隣に、フィルター機能があります、ファイルの拡張子および作成時間でフィルターをかけることが可能です。その右にインデックスプルダウンリストがあります、これで、検索対象を指定することが可能です。さらに、インデックスプルダウンリストの右側に数字がありますが、それを変更すると、検索結果リストの高さを調整することができます。左下にページサイズ、ページ番号、「前へ」、「次へ」などが表示されて、ページサイズを変えたり、ページ遷移したりが可能です。右側テキスト表示領域に対して、「行番号をつけて表示する」チェックボックスがあり、チェックを入れると、行番号を表示することができます。

テキスト表示領域のフォントサイズを変えたい場合、右上のスピンコントロールの上下ボタンを押すと、サイズの変更になります。

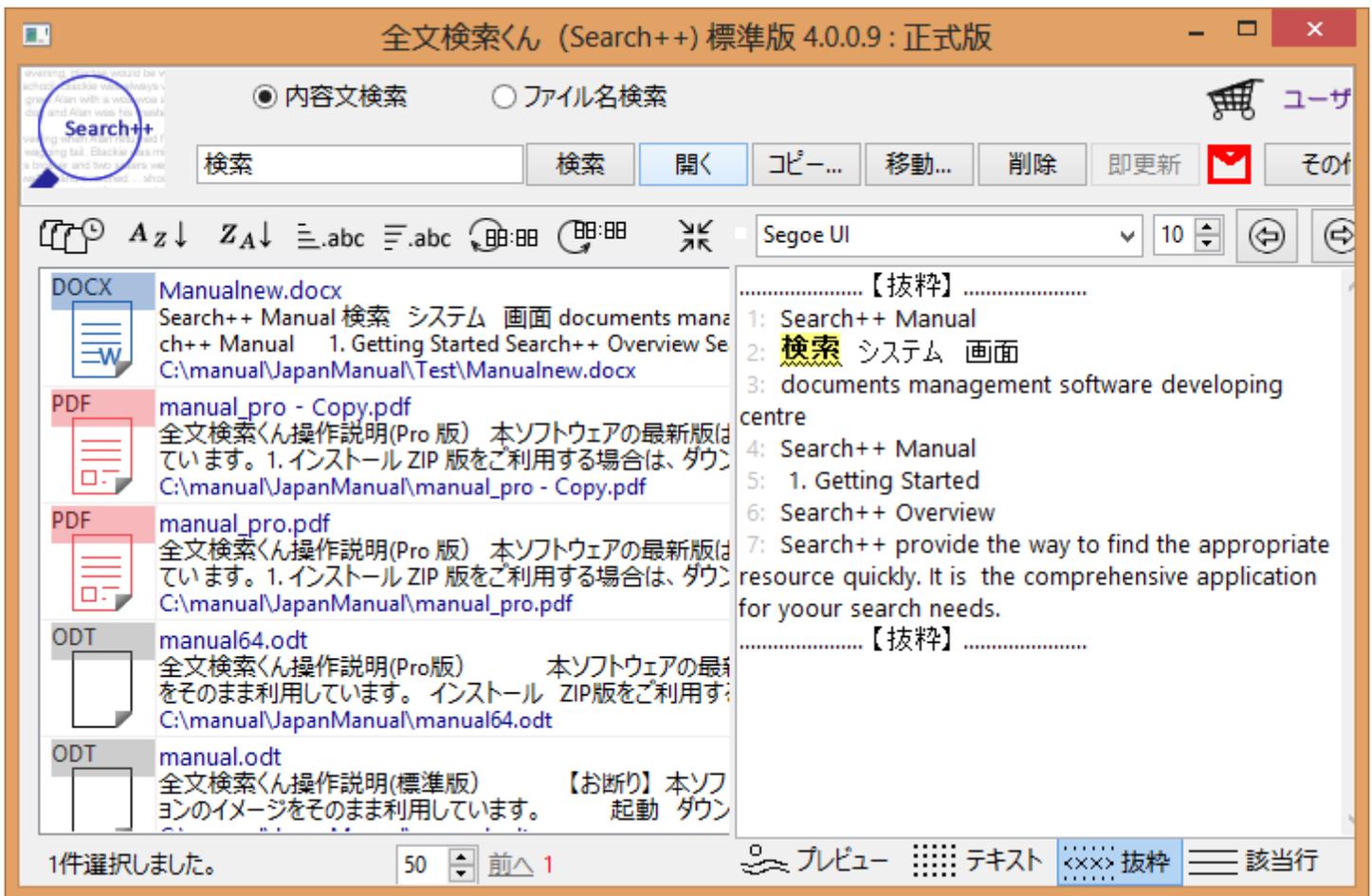


図9 検索結果画面

6. 検索画面に対する操作

画面の上部にチェックボックスがあり、内容文に対する検索あるいはファイル名に対する検索が選択できます。検索キーワードを入力して、Enterキーを押すか「検索」ボタンを押すと、検索が実行されます。

検索結果リストのファイルにフォーカスを当てると、マッチ行の前後文章が表示されます（いわゆる抜粋表示機能）、↑ ↓キーを押せば、ファイルを切り替えて表示します。ファイルを選択した状態で、「開く」、「コピー」、「移動」、「削除」ボタンを押すと、ファイルを開いたり、コピー、移動、削除ができます。

画面右下にある「プレビュー」、「テキスト」、「抜粋」、「該当行」をクリックすると、ファイルの内容を表示したり、該当ファイルのテキストを表示したり、該当行前後内容（抜粋）だけを表示したり、該当行だけを表示したりします。

ファイル名検索の場合、「プレビュー」、「テキスト」だけを表示できます。

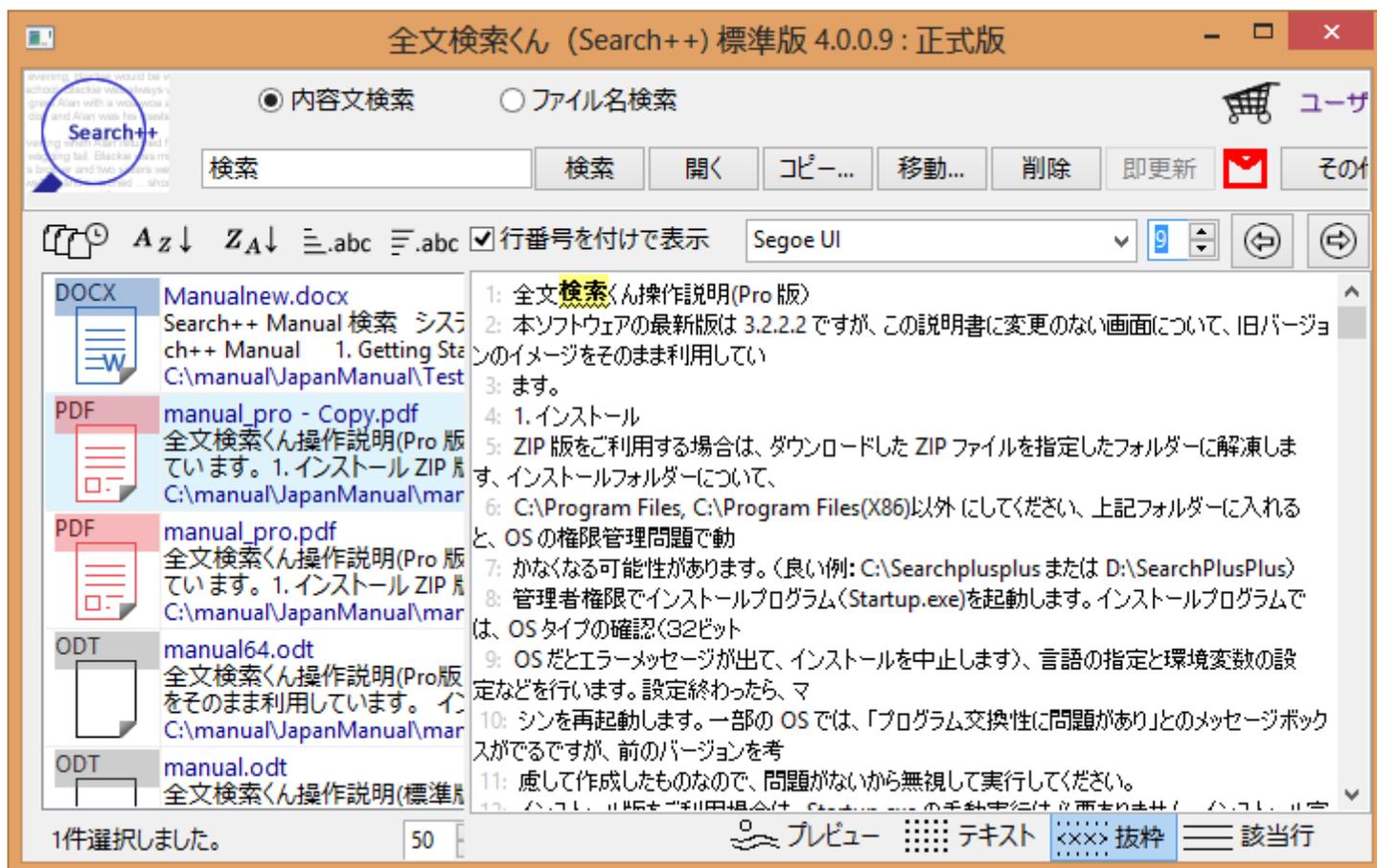


図 1 0 番号付テキスト内容の表示画面

該当ファイルのアイコンをダブルクリックするかメイン画面右下の「該当行」ボタンをクリックすることによって、マッチした行が表示されます。

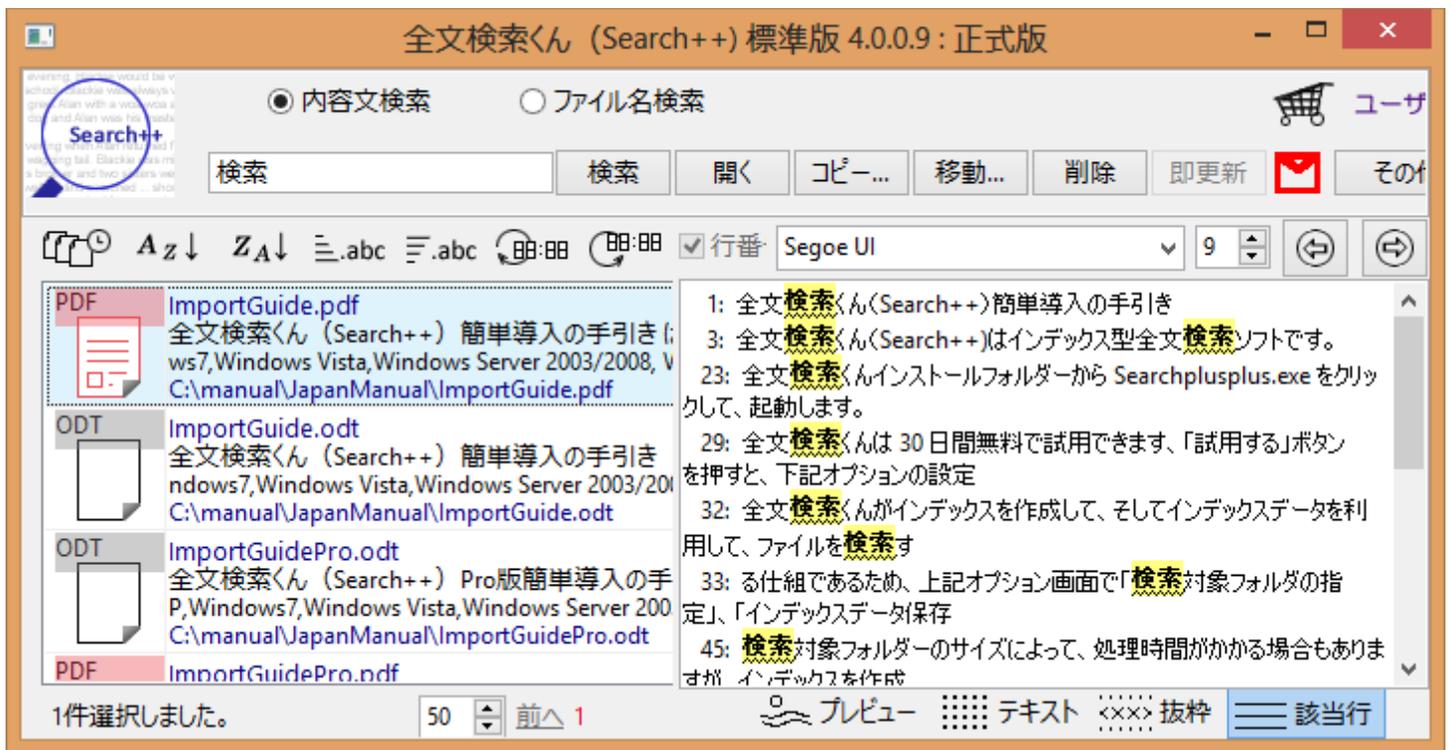


図 1 1 マッチした行の表示画面

該当ファイルの情報列をダブルクリックすると、OS 上関連プログラムが立ち上がり、該当ファイルを開きます。(関連プログラム情報が無い場合は、反応がないです。さらに、サードパーティーの関連プログラムと連携して、ファイルを開いた場合即座に検索する機能も実現しました。詳細は後述をご参照ください。)

右マウスをクリックしたら、下記のようなポップアップメニューが出て、選択したファイルに対して、「該当行まで検索」、「テキスト内容表示」のほか、ファイル名をクリップボードにコピーする機能、該当フォルダーを開く機能、外部関連プログラムで開く機能などもあります。さらに「ヘッダの表示・非表示」メニューによってテーブルのヘッダを表示させたり非表示させたりできます。ヘッダ表示した場合、コラムの幅を調整することができます。

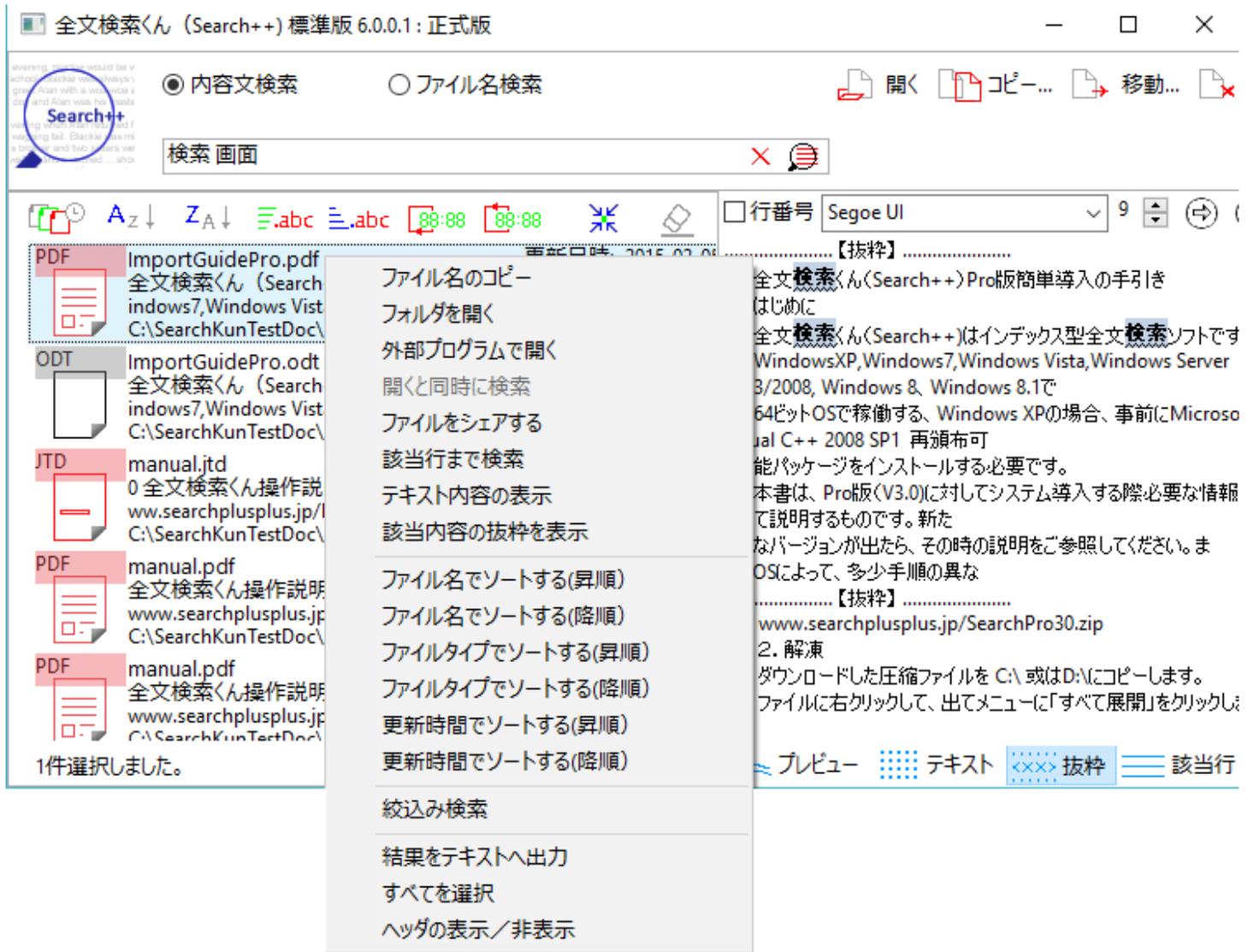


図 1 2 右メニュー

検索結果ファイルリストにあるファイルに対して、外部プログラムで開いたり、テキスト内容を表示させたり、該当行まで検索させたりすると、該当ファイルは最近使用したファイルリストに入ります。ツールバーの一番左のアイコンをクリックすると、最近使用したファイルリストの確認ができます、最大 30 個までとしますが、30 個を超える場合、リストに一番最初の古いものが消されます。リストからファイルを選択して、検索ボタンを押すと、メイン画面に遷移して、前の条件で検索します。

最近使用したファイル				
No.	ファイル名	検索キー	インデックス名	タイプ
1	C:\manual\JapanManual	Manual	追加アイテム	ファイル名検索
2	C:\manual\JapanManual\ImportGuidePro.odt	簡単	追加アイテム	内容文検索
3	C:\manual\JapanManual\ImportGuide.pdf	"Windows Vista"	追加アイテム	内容文検索
4	C:\manual\JapanManual\ImportGuide.odt	Searchplusplus	追加アイテム	内容文検索
5	C:\manual\JapanManual\manual2.xdw	解凍	追加アイテム	内容文検索
6	C:\manual\JapanManual\Readme.txt	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
7	C:\manual\JapanManual\ebook_manual.pdf	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
8	C:\manual\JapanManual\電子書籍.doc	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
9	C:\manual\JapanManual\manual.doc	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
10	C:\manual\JapanManual\manual.jtd	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
11	C:\manual\JapanManual\ImportGuidePro.pdf	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
12	C:\manual\JapanManual\manual_pro.pdf	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
13	C:\manual\JapanManual\manual_pro - Copy.pdf	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
14	C:\manual\JapanManual\manual.pdf	検索 w4 画面	追加アイテム	内容文検索

図 1 3 最近使用したファイルリスト

7. 実行モード

本ツールの実行モードは二つあります、非常駐モードと常駐モードです。

非常駐モードでは、OS に常駐しませんし、OS 起動時にも起動しません。非常駐モードでは、検索するたびに、前回インデックスデータの作成時間を提示し、インデックスを更新するかどうかユーザの判断を仰ぐことになります。

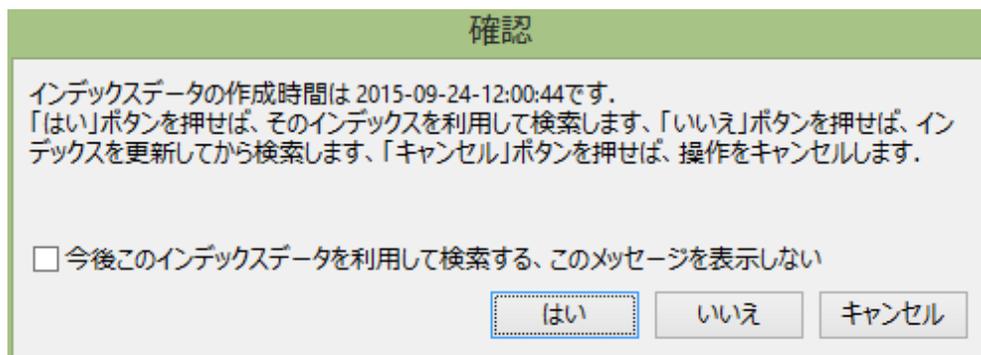


図 1 4 非常駐モードで検索したら、前回インデックスデータの作成時間を提示します

常駐モードではシステムトレイに入って、バックグラウンドで検索対象フォルダーを監視します、検索対象フォルダーにファイルの変更があれば、インデックスデータに反映するモードです。

常駐モードでは、OS 起動時にプログラムが起動します。



図 1 5 常駐モード (トレーモードとも呼ばれます)

常駐モードでは、下記図 1 6 - A、図 1 6 - B のように処理状態は吹き出し Tooltip と Tooltip 両方で表示されます。

マウスをシステムトレイに全文検索くんのアイコンに移動していただければ Tooltip で状態を確認することができます。



図 1 6 - A 吹き出し Tooltip で実行状態などを表示します



図 1 6 - B Tooltip で実行状態などを表示します。

トレイアイコンに右クリックしたら、下記画面が表示され、以下の機能が利用できます。

- 1) 検索画面 (図 7 のメイン画面) を開くこと
- 2) 実行状態を確認すること
- 3) インデックス作成プロセス、検索プロセスを中止させること
- 4) インデックスを再作成すること
- 5) 本ツールを終了させること



図 1 7 トレーアイコンの右メニュー

また、検索画面（メイン画面）を開くには、ユーザが設定画面で設定したホットキーで押せば可能です。ホットキーを押して画面を表示させる際、前回の検索結果をクリアします。

二つモードの切替は前述の「図 5 オプション設定画面」で「OS 開始時自動的に起動し、常駐させ、インデックスデータを常に更新する」オプションをオンまたはオフにすれば実現できます。

8. 外部プログラムで開く

図 6 の検索画面で三列目の「ファイル情報列」をクリックするか、図 1 2 の右メニューの三番目「外部プログラムで開く」か四番目「開くと同時に検索」をクリックするかによって、外部関連プログラムで該当ファイルを開くことができます。

PDF ファイル、Excel ファイル、Word ファイル、Powerpoint ファイルに対して、「外部プログラムで開く」と「開くと同時に検索」機能を実現しました。前者の場合、ファイルを開くだけですが、後者の場合ファイル開いたら検索をかけます。

PDF ファイルの場合は、該当箇所のテキストをハイライトしますが、Excel ファイル、Word ファイル、PowerPoint ファイルの場合は、青色で表示します。この機能を利用するには、PDF ファイルの場合、PDF Xchange Viewer または Adobe Reader のインストールが必要です。Excel、Word、Powerpoint ファイルの場合、MS Office のインストールが必要です。

「開くと同時に検索」機能は上記ファイルタイプだけ、かつ、検索キーが単一キーだけの場合にご利用できます。複数キーの場合はファイルを開くだけになります。

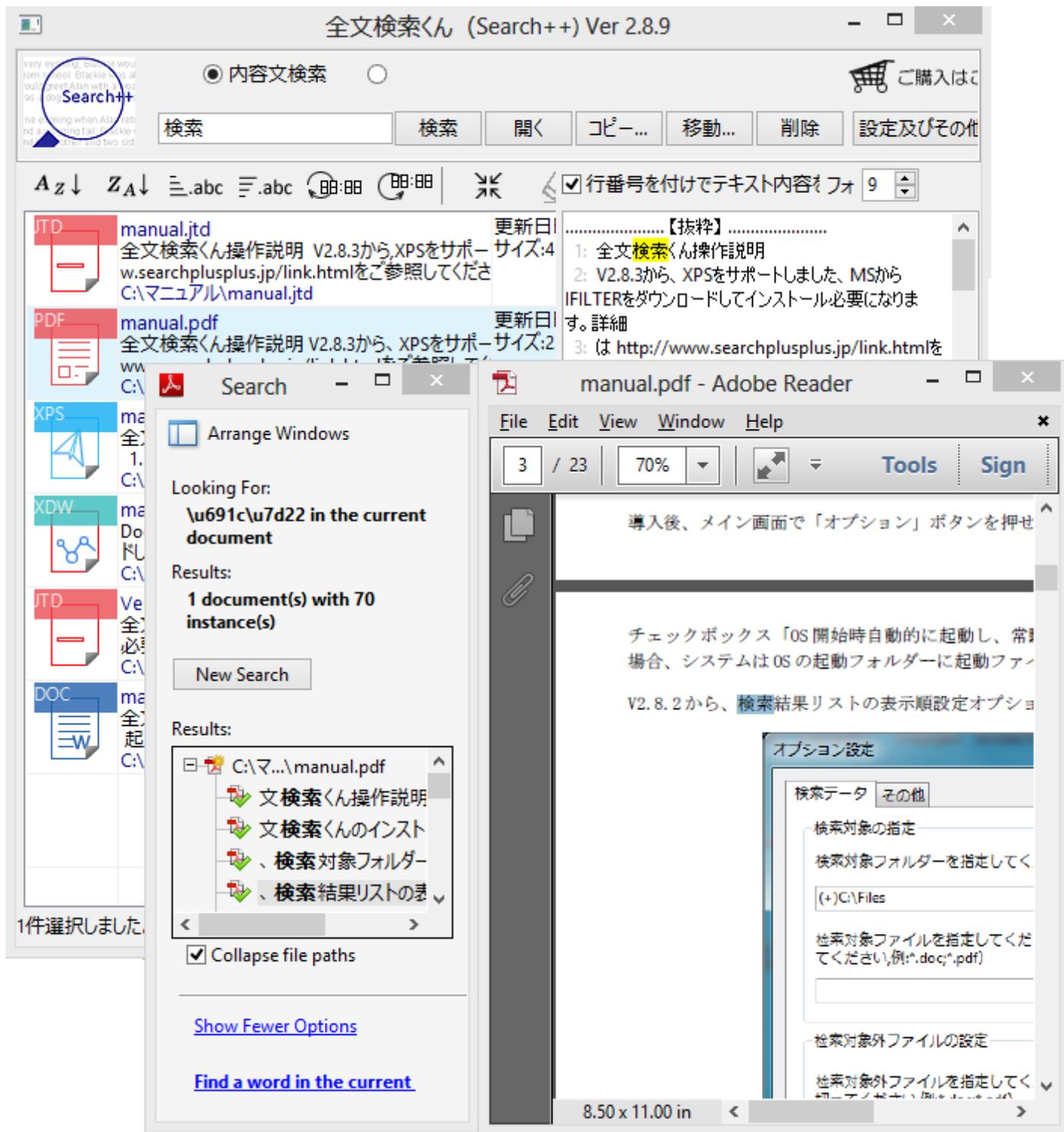


図 1 8 - 1 外部プログラムで PDF ファイルを開きます

V2.8.9 では、PDF に対して、ページ情報の解析ができ、マウスをクリックした場所のページまで開くことが可能です。詳細手順は以下です。

- 1) メイン画面左の画面検索結果リストで PDF ファイルを選択します。
- 2) 右下の「テキスト」ボタンをクリックします。
- 3) 右側のテキスト表示領域で右マウスをクリックすると、「カレントページを開く」メニューが表示されます。
- 4) 「カレントページを開く」メニューをクリックして、マウスポイントが当たった場所の該当ページを開きます。

図 1 8 - 2 外部プログラムで PDF ファイルの指定ページを開きます

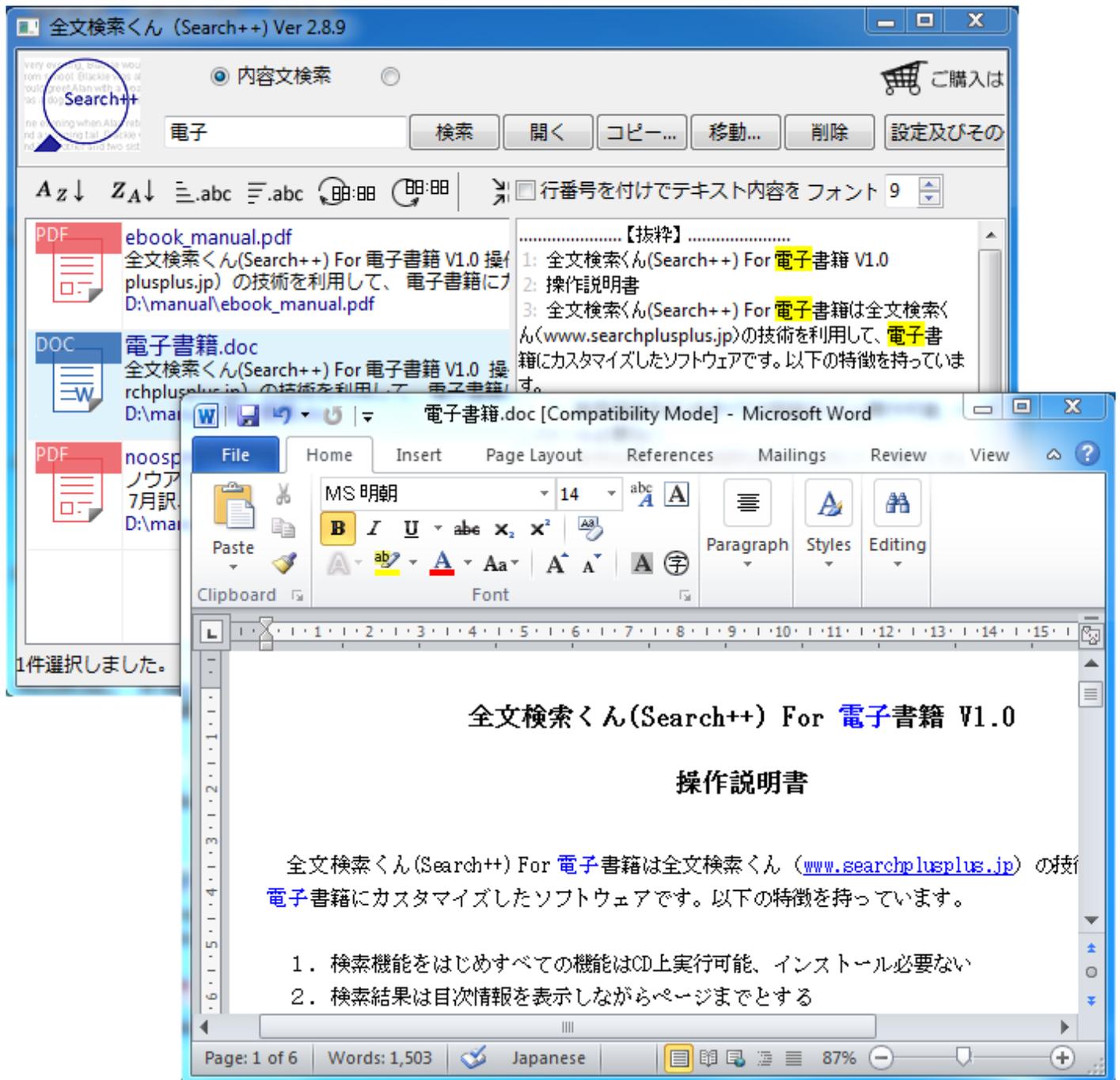


図 1 9 外部プログラムで Word ファイルを開きます (該当文字は青色で表示されます)

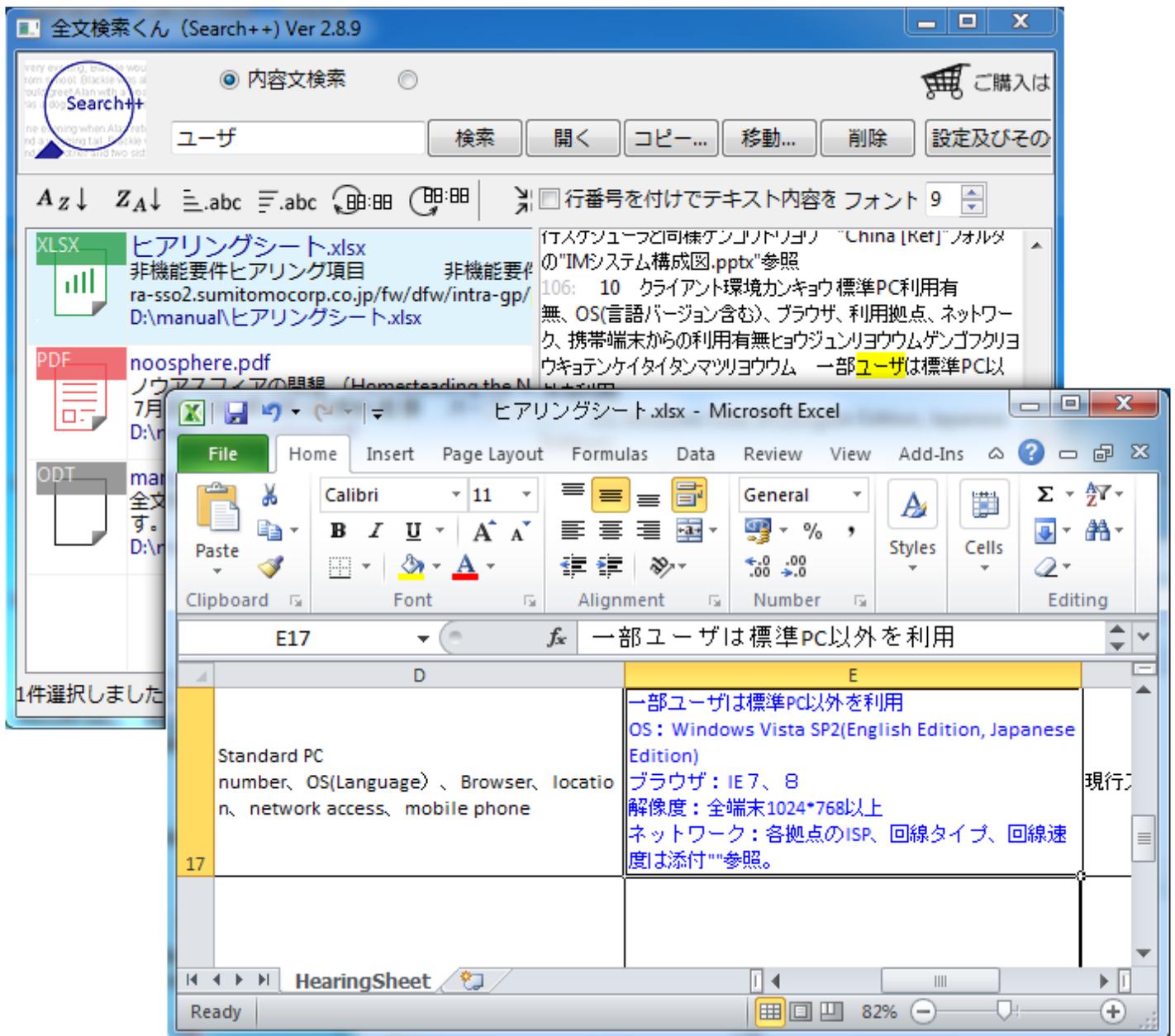


図 2 0 外部プログラムで Excel ファイルを開きます（該当セルは青色で表示されます）

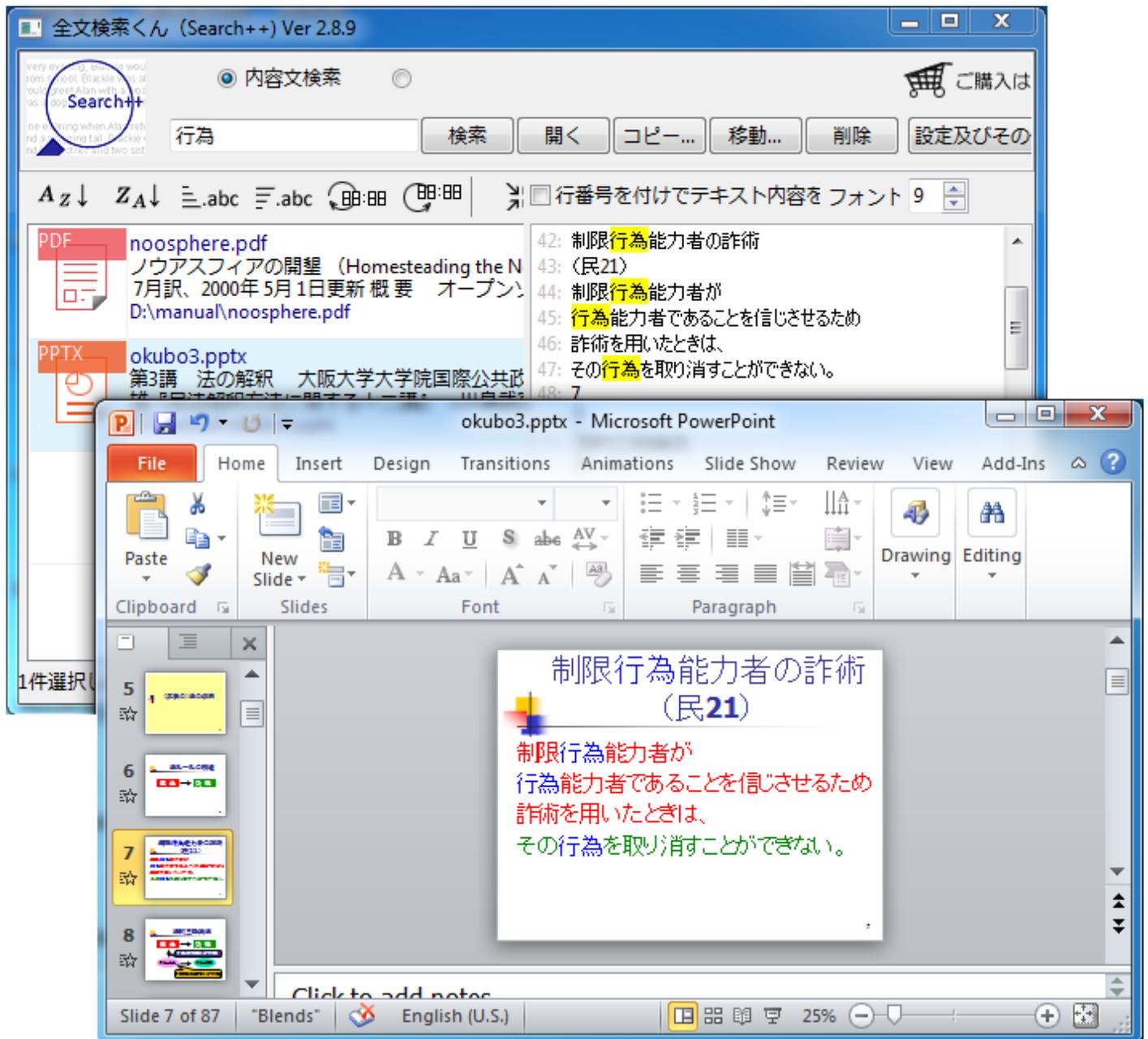
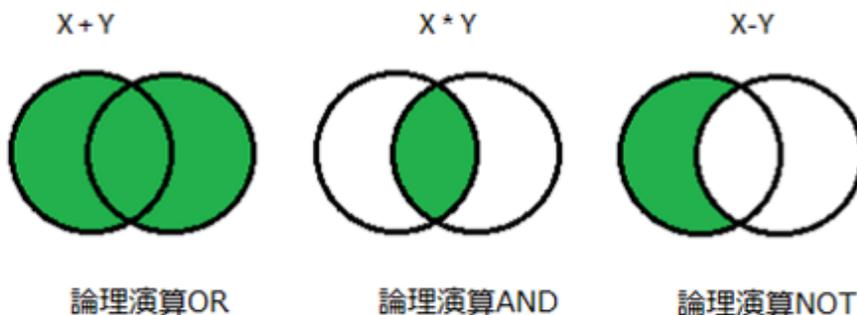


図 2 1 外部プログラムで PowerPoint ファイルを開きます (該当文字は青色で表示されます)

9. 検索キーについて

検索機能について、複数検索キーの指定が可能です。オプション画面（図3）で AND 検索と OR 検索の指定ができます。

複数検索語の場合、検索語に対して、論理演算子 AND/OR/NOT を使用することができます。指定しない場合はシステムは OR と処理します。



論理演算子の使用方法ですが、論理演算 OR の場合、検索ボックスに「キーワード 1 OR キーワード 2」を入力してください、論理演算 AND の場合、検索ボックスに「キーワード 1 AND キーワード 2」を入力してください、論理演算 NOT の場合、検索ボックスに「NOT キーワード 1」を入力してください、それぞれの検索範囲は上記の図に示した通りです。

The screenshot shows the '全文検索くん (Search++) Ver 2.8.9' application window. The interface includes a search bar with the text '検索 AND インデックス AND 更新', a search button, and various utility buttons like '開く', 'コピー...', '移動...', '削除', and '設定及びその他機能'. Below the search bar, there are options for 'A z ↓', 'Z A ↓', and '≡.abc ≡.abc'. The main area displays a list of search results, including files like 'manual.jtd', 'manual.pdf', 'manual.xps', and 'manual2.xdw'. A right-hand pane shows a help menu with numbered items (18-29) detailing installation and usage instructions. At the bottom, it indicates '1件選択しました。' and provides navigation options for 'テキスト', '抜粋', and '該当行'.

図 2 5 論理演算検索 (AND)

V2.8.5 から、近傍検索機能を実現しました。単語と単語の距離を検索条件として指定することで、より関連度の高い情報に絞り込むことができる検索方法を「近傍検索機能」と呼びます、近傍検索機能は特許業界でよく使われているようです。

下記画面のように検索キーワードとキーワードの間に単語の数を指定すれば、関連度の高い情報を検索できます。

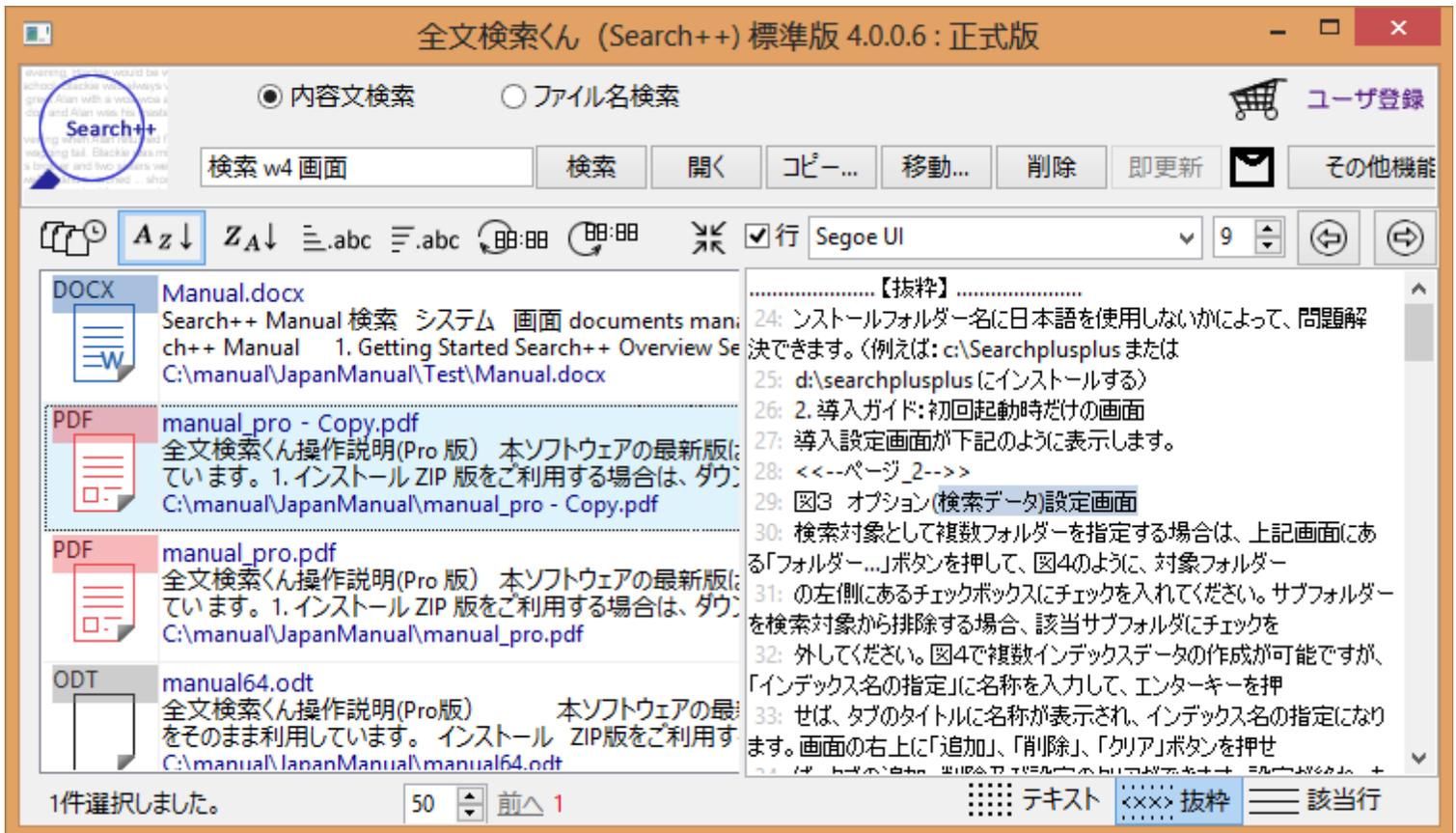


図 2 6 近傍検索

検索キーワードの後ろに*を入れると前方一致検索になります。

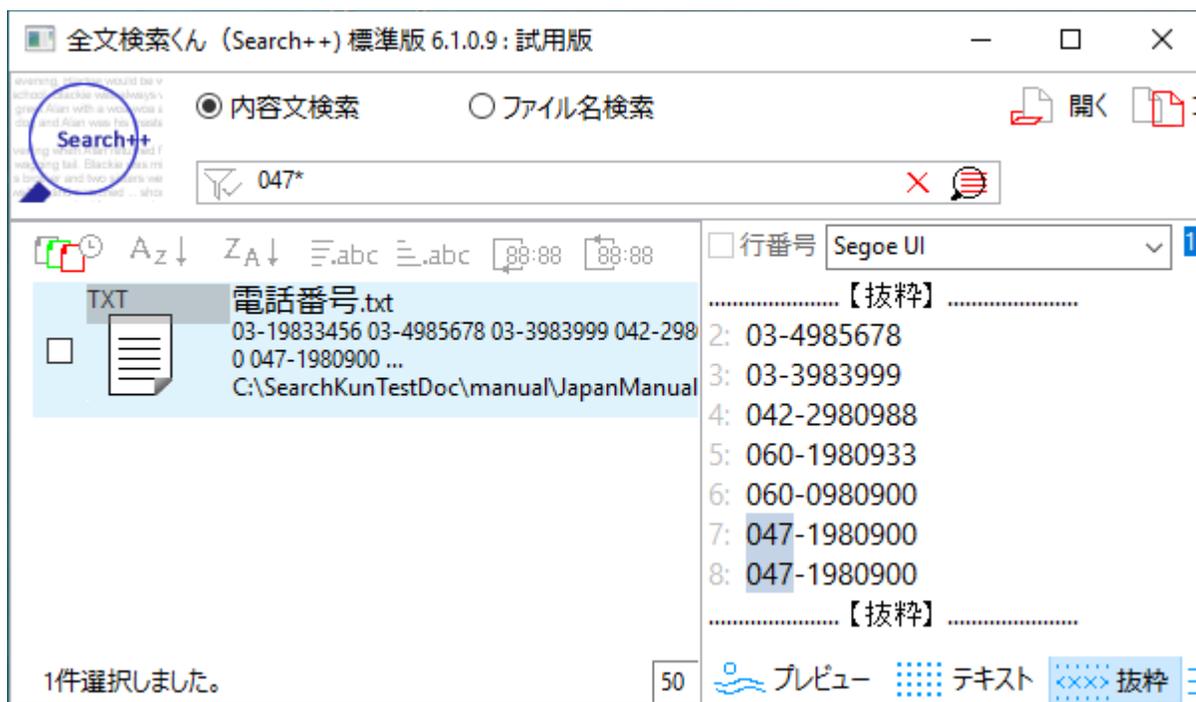


図 2 7 前方一致検索

10. 抜粋表示機能

該当内容の抜粋表示機能は、マッチした行とその前後の内容を表示することです。表示範囲を増やすには、オプション画面で前後の行数設定を多めに変えればいいです、その設定値は次回の検索結果表示に反映されます。

「テキスト」ビュー、「抜粋」ビュー、「該当行」ビュー」いずれの画面に右クリックすると、メニューが出てきます。お互いに遷移することができます。かつ、マウスでクリックした行は遷移先のビューに存在していると、その行を判りやすくようにマークします。



図 2 8 抜粋表示機能

11. その他ソート機能及び絞り込み機能



図 2 9 - 1 絞り込み条件設定と解除

上記画面の絞り込みボタンを押すと、絞り込みダイアログが表示され、ファイルタイプ、更新時間、サブフォルダなど絞り込み条件の設定が可能になります。

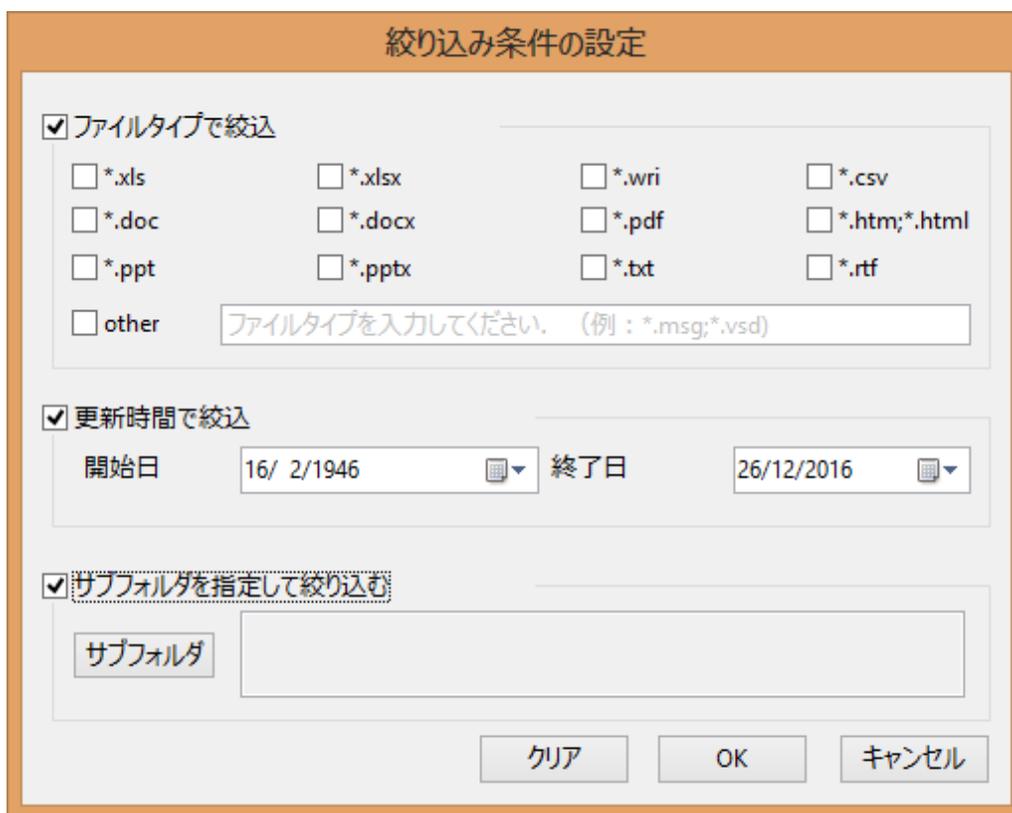


図 2 9 - 2 絞り込み条件設定

一方、検索結果リストにあるファイルまたはフォルダをチェック入れて対象として絞り込み検索が可能です。

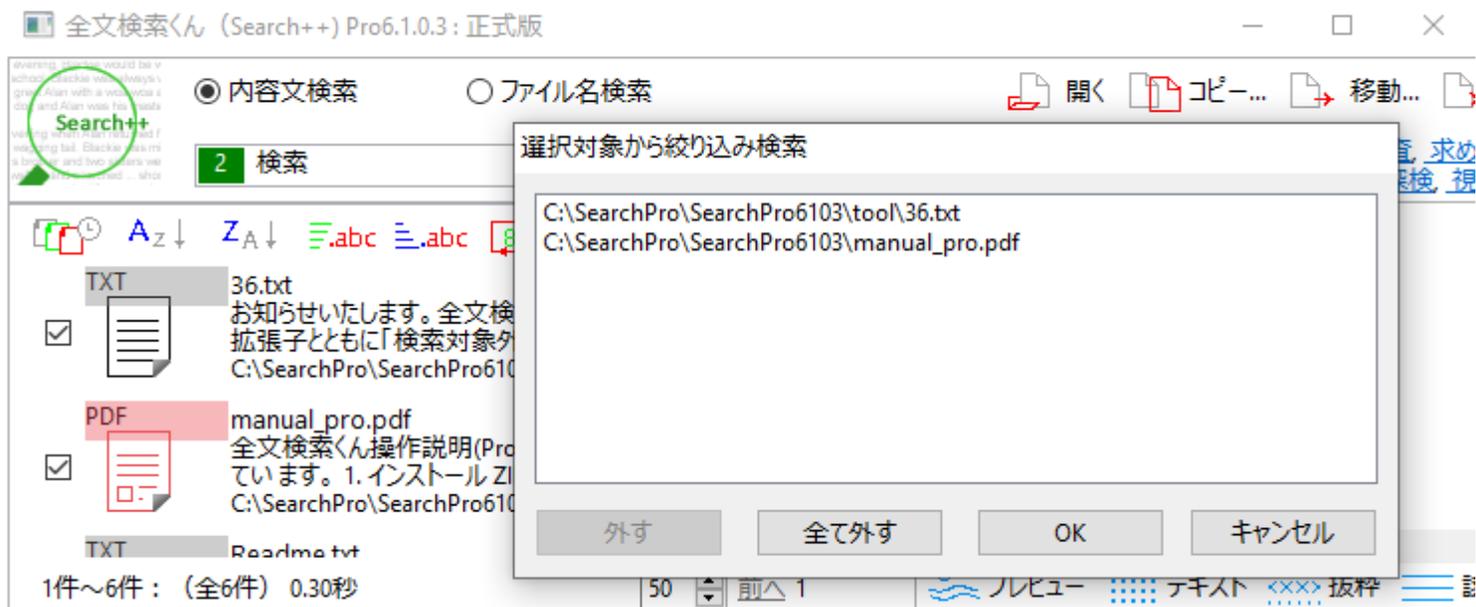


図 2 9 – 3 検索ファイルリストからさらに絞り込んで検索

検索テキストボックスの左側のアイコンに選択対象ファイル数は表示され、検索語を入れて検索すると、これらを対象として絞り込み検索になります。このアイコンをクリックすると、絞り込み検索対象ファイル設定ダイアログが表示され、絞り込み検索対象から外すことが可能です。

ほか、「設定及びその他機能」→「本ソフトについて」メニューをクリックすれば、各種情報確認も可能です。



図 3 0 マニュアルなど各種情報

12. ホットキーについて

トレーモードの場合、オプション画面でホットキーの設定ができます。設定したホットキーを押すと、全文検索くんのメイン画面 (Search++) が最前面になります、つまり、カレントプロセスとの前後関係の調整を行います。ただ、カレントプロセスは Adobe Reader の場合 (例えば、Adobe Reader で PDF を開いている場合)、Adobe Reader の保護モード設定 (デフォルト: オン) をオフにしないと、このような調整が効きません。

保護モードを外す方法は Adobe Reader のバージョンによって違います。

Reader X 以下では「編集」メニュー>「環境設定」の「一般」タブを選んで、「起動時に保護モードを有効にする」をオフにする必要があります。

Reader XI では「編集」メニュー>「環境設定」の「セキュリティ (拡張)」タブを選んで、「サンドボックスによる保護」領域で、「起動時に保護モードを有効にする」をオフにしてください。

ホットキー以外にオプション画面に「マウスを振る」で検索画面を呼び出すことも可能です。マウスを横に振れば、画面を呼び出します。

13. インストール・アンインストール機能

全文検索くん (Search++)ZIP 版のインストールはダウンロードしたファイルを指定した場所に解凍するだけで、パソコンの管理者権限を持っていなくても、全文検索くんの利用ができます。

OS のレジストリにも、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」リストにも登録しないです、アンインストールの場合、同梱のツール（ZIP ファイル版：DeleteTool.exe、インストーラ版：Uninstall.exe）をクリックしてください。正式版をアンインストールする際、自動的に認証解除を行います。

WinXP の場合、アンインストール機能のご利用には [Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ](http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582) のインストールが必要です。（ダウンロード先：<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582>）

14. メモリ管理ツール

全文検索くんにメモリ管理ツールがあります。同梱の MemAdm.exe をクリックすれば、最大利用メモリの設定が可能です。

全文検索くん標準版は 32 ビット、64 ビット OS 両方をサポートします。32 ビット OS に最大利用メモリの制限があります。ですので、標準版では最大利用可能メモリは 1000MB を目安になっています、一方、Pro 版は 64 ビット OS だけをサポートして、このような制限がないですが、Pro 版では最大利用メモリを設定する時、物理メモリを見て、検討することになります。

ファイルのサイズが大きいまたはファイルに画像などが大量にある場合、インデックス作成処理では、必要となるメモリ量がツールの最大メモリ値設定値を超え、下記画面が表示されます。該当ファイルを対象外にするか最大利用メモリを変更するかが選べます。何もしない場合、10 秒を経つと、該当ファイルをスキップします。

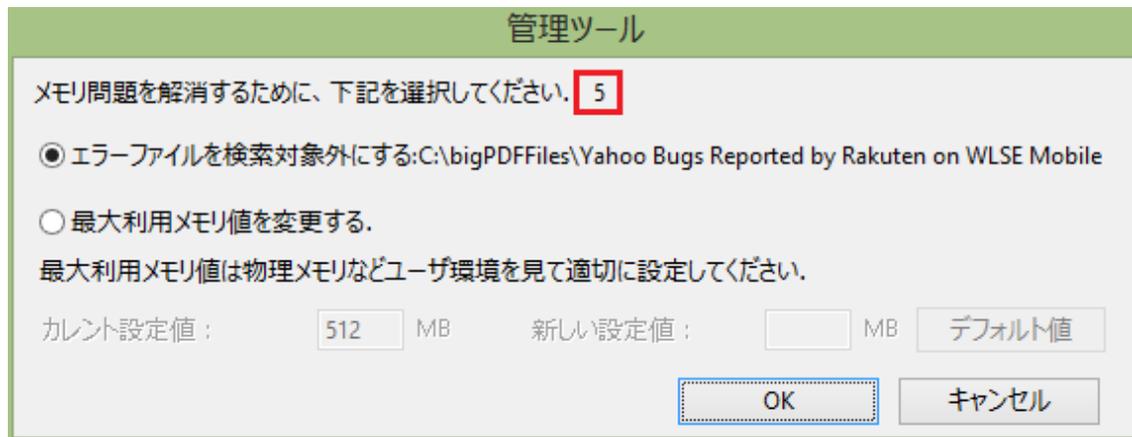


図 3 1 管理ツール

設定値が間違っ、OS の処理能力外になり、ツールが起動できなくなった場合には、MemAdm.exe をクリックして、最大利用可能メモリを減らしたり、デフォルト値に戻したりすることもできます。

15. インデックスの作成、更新

インデックス作成はファイルの数によって、時間がかかる場合があります、その時、ユーザは一旦インデックスの作成を中止させることができます。

「設定及びその他機能」→「中止」メニューをクリックすれば、一旦中止になります。中止になるまでインデックス化処理済みファイルに対して、検索することができます。

中止後、本ソフトを再起動すれば、システムは中止させた場所を検知し、インデックス作成を再開します。

また、前文の 14. で記述したように、ファイルのサイズなどの原因で中断した場合、その後、メモリ管理ツール画面で利用可能メモリを増やしたり、エラーとなる対象ファイルをスキップしたりすることも可能です。

常駐モードでご利用している場合、全文検索くんはインデックス更新を自動的に行うことが可能です。図 5 で示したように「アイドル時間が続くと更新する」、「指定時刻で更新する」、「手動で更新する」のオプションがあります。「アイドル時間が続くと更新する」とは指定したアイドル時間が続くと、全文検索くんはいままで OS から通知した変更があるファイルを対象にして、インデックスデータを更新します。「指定時刻で更新する」とは業務の忙しい時間帯を避けて、たとえば、お昼時間などを指定して、対象ファイルをインデックス化することです。「手動で更新する」とはユーザが自ら更新ボタン(メイン画面にある)を押して、インデックス更新を行うことです。これらか指定によって、CPU、メモリに負荷が重いインデックス化処理をアイドル時間を利用して実行が可能となります。

さらに、指定時刻で更新する場合、自動シャットダウンも選択可能です。毎日夜中にインデックス更新を設定して、さらに自動シャットダウンオプションを付けると、インデックスデータを処理してから、「シャットダウンします」ようなメッセージが出て、10秒以内にキャンセルをしなければ、シャットダウンを行います。

非常駐モードでメイン画面の「即更新」ボタンを押すと、インデックスデータ作成時点での対象ファイル情報と現時点での最新情報を比較して、変更のあるファイルを対象にインデックスデータを更新します。非常駐モードは文字通り、常駐しないため、メモリ、CPU に対しての負荷が少ないです。

社内 LAN で検索システムを構築する場合、インデックス更新処理がエージェントマシンに Windows サービスとして登録することが可能です。その時、Windows サービスの回復属性を設定するために管理者パスワードが必要です。インデックス更新処理にエラーが発生したら、全文検索くんのインストールフォルダ下の searchplusplus.log ファイルに出力します。

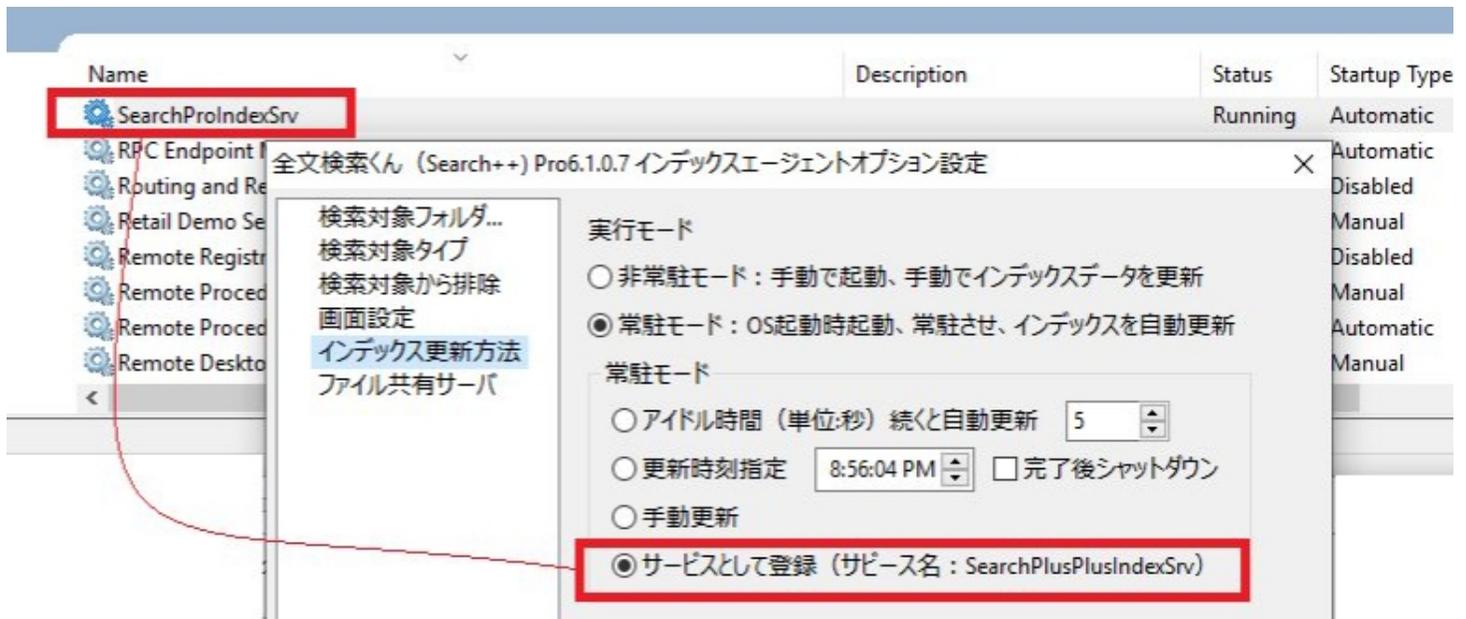


図 3 1 - A インデックス処理はサービスとして登録

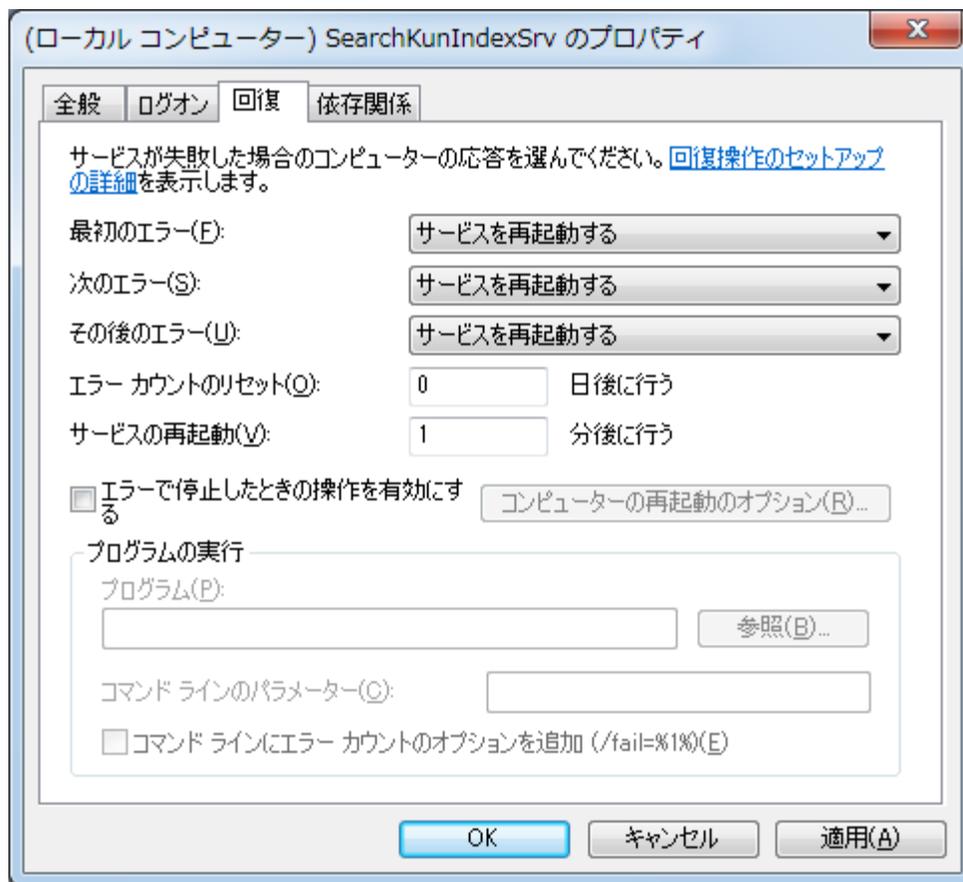


図 3 1 - B 回復の設定

16. IFilter 機能

IFilter をサポートします。それぞれの IFilter をインストールしたら、一太郎、Docuwork、縦書き PDF、XPS のの検索ができます。
(IFilter のサポート情報及びダウンロード先は <http://www.searchplusplus.jp/link.html> を参照してください、config.xml の設定を変更する場合、全文検索くんを先に終了させる必要があります。)

同梱の IFilterStatus.exe をクリックすれば、全文検索くんの実行環境に上記 IFilter が入っているかどうかのチェックができます、入っていない場合は、ダウンロード先のウェブサイトを開き、ダウンロード及びインストールをお願いします。この機能をメニューから起動させるには、「設定及びその他機能」メニューの「IFilter のインストール状況」サブメニューをクリックしてください。

WinXP の場合、この機能のご利用には [Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ](http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582) のインストールが必要です。(ダウンロード先:<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582>)

一太郎本体をインストールしてある場合は、IFILTER で検索できない文章でも、一太郎本体の機能を利用して、インデックスデータを作成して、検索が可能です。ファイルの内容によって、一太郎フォントが認識できない場合は下記の画面がでますが、「確認」ボタンを押したら、処理が進みます。

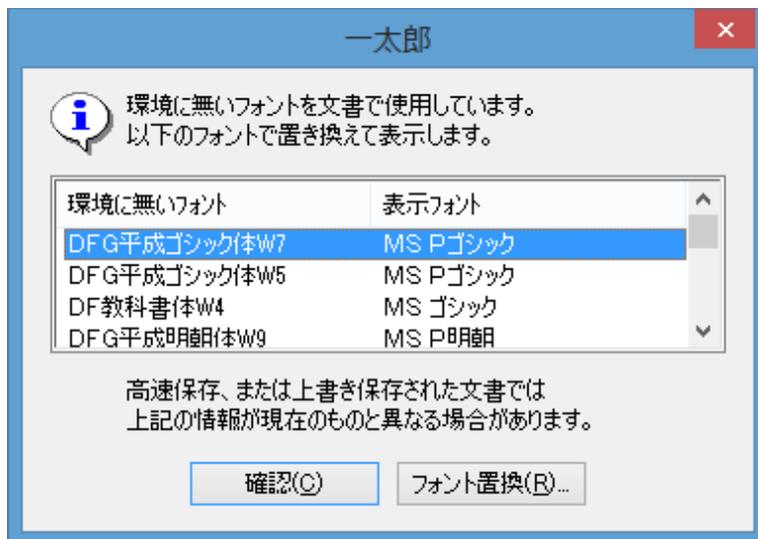


図 3 2 一太郎からの確認メッセージ

インデックスを作成の時、上記ダイアログが表示され、確認ボタンを押さないと進まないことを解決するには、V3.2.2.5以降、拡張子 JTD の一太郎ファイルに対して直接解析できるようにしました。つまり、一太郎の IFILTER をインストールしなくても、解析できて、検索できるようにしました。

17. ファイルコピー・移動・削除

検索結果リストのファイルを選択して、画面上の「コピー」、「移動」ボタンを押せば、コピー先・移動先の指定ができます。指定場所に同名ファイルが存在している場合、下記のダイアログが出て、上書きするかどうかを指定できます。

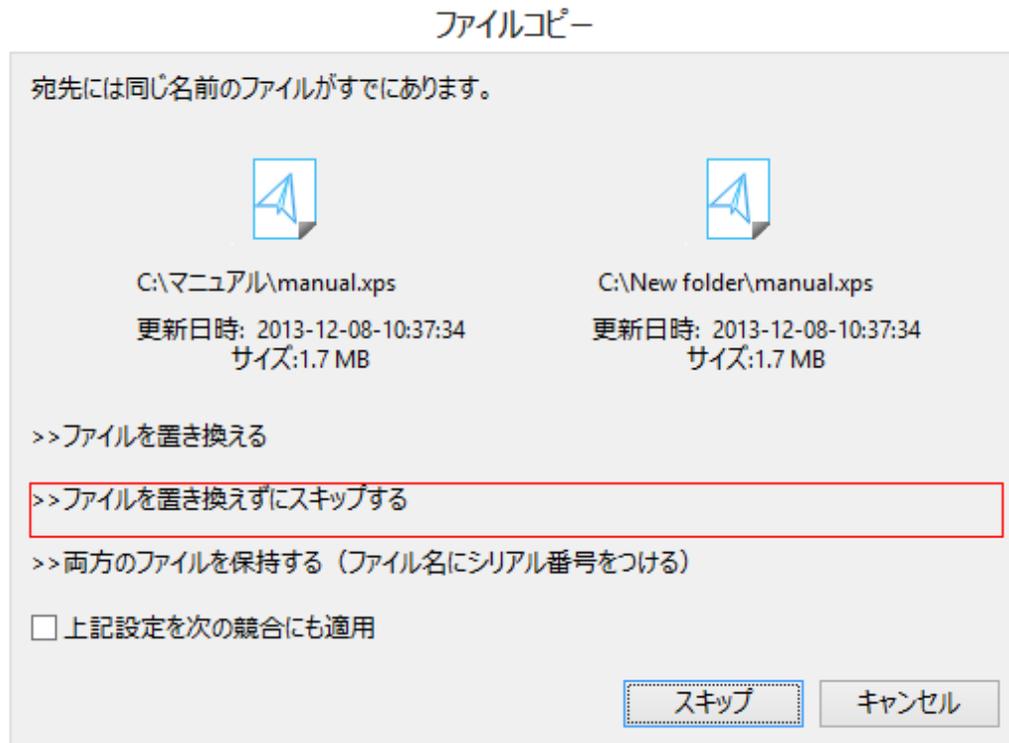


図 3 3 ファイルコピー

18. ネットワーク認証

本ツールは1台のPCにつき1ライセンスが必要です。ライセンスを複数のPCで同時共有することはできません。メイン画面の「その他」→「認証」ボタンを押して、ライセンスキーを押すと、ネットワーク認証を行います。

認証済みの場合、下記メニューは「認証解除」と変わって、認証の解除を行うことが可能になります。ライセンスを別のPCで利用する場合、まず、現在のPCから認証解除してください。PCに違うWinバージョンをインストールしたり、PCを入れ替えたりする場合、まず、ご利用の正式版からメイン画面の「認証の解除」メニューをクリックしてください。新しいOSまたはPCをインストールしたら、ライセンス認証すれば、引き続き正式版を利用することが可能です。

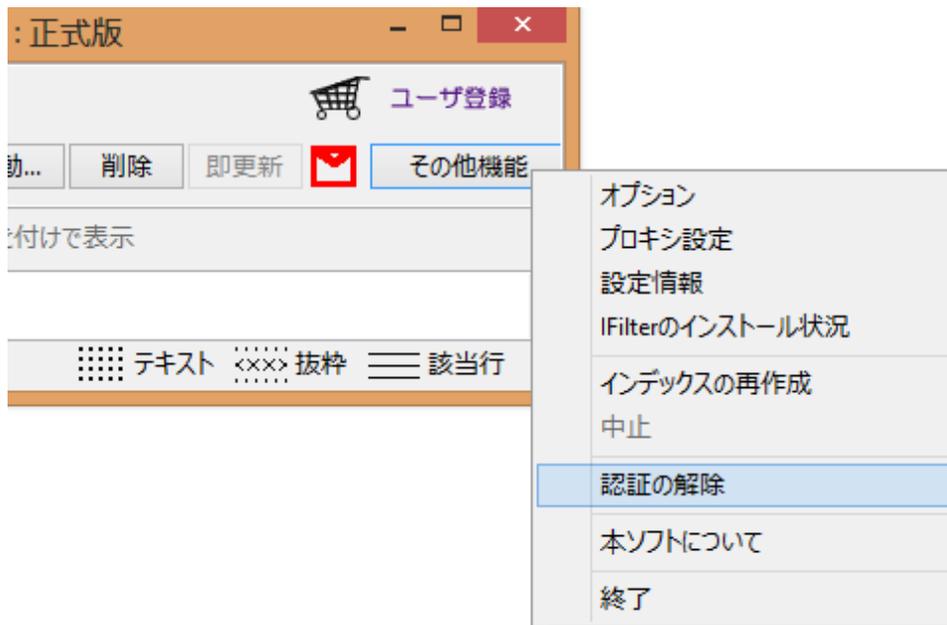


図 3 4 認証の解除

ネットワークに接続していない場合には、support@searchplusplus.jpにメールを送ってください、メールでの認証も受付ております。

標準版は 32ビットOS・64ビットOSの両方をサポートしていますが、32ビットOSの制限で、アプリケーションの最大利用メモリは 1 GB以下に制限されています。Pro版では64ビットOSだけをサポートしています、32ビットOS上の 1 GBの制限がなくなり、ご利用PCのメモリは大きければ大きいほど、処理できるファイルがより大きいです。全文検索くんの最大利用メモリは同梱の Memadm.exeで設定できます。

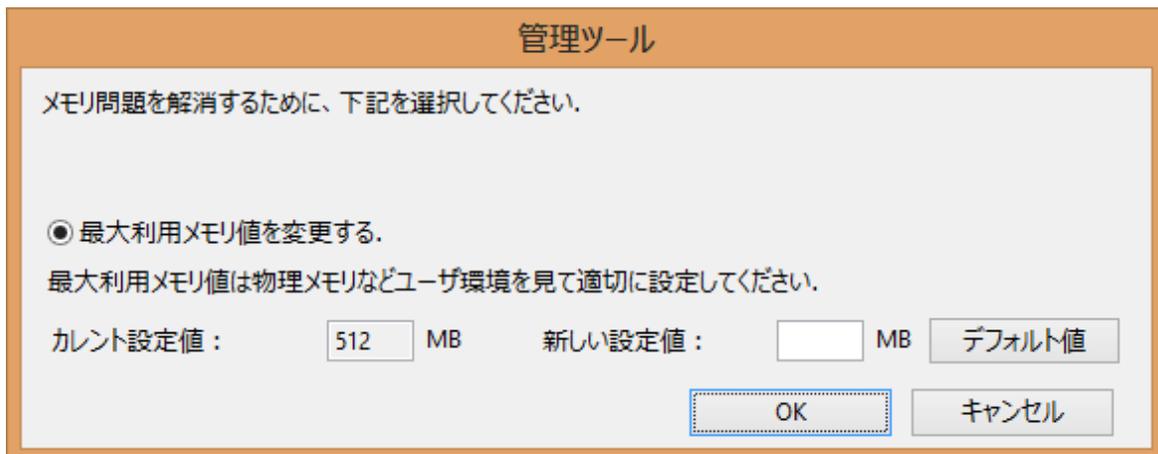


図 3 5 メモリ管理ツール

全文検索くんはデスクトップだけではなく、設定を変えれば、エージェント版またはクライアント版にもなります。LAN上ファイルサーバのシェアフォルダを利用して社内検索システム構築も可能です。ソフトウェア同梱の社内システム構築図.pdfをご参照ください。

19. ファイルシェア機能

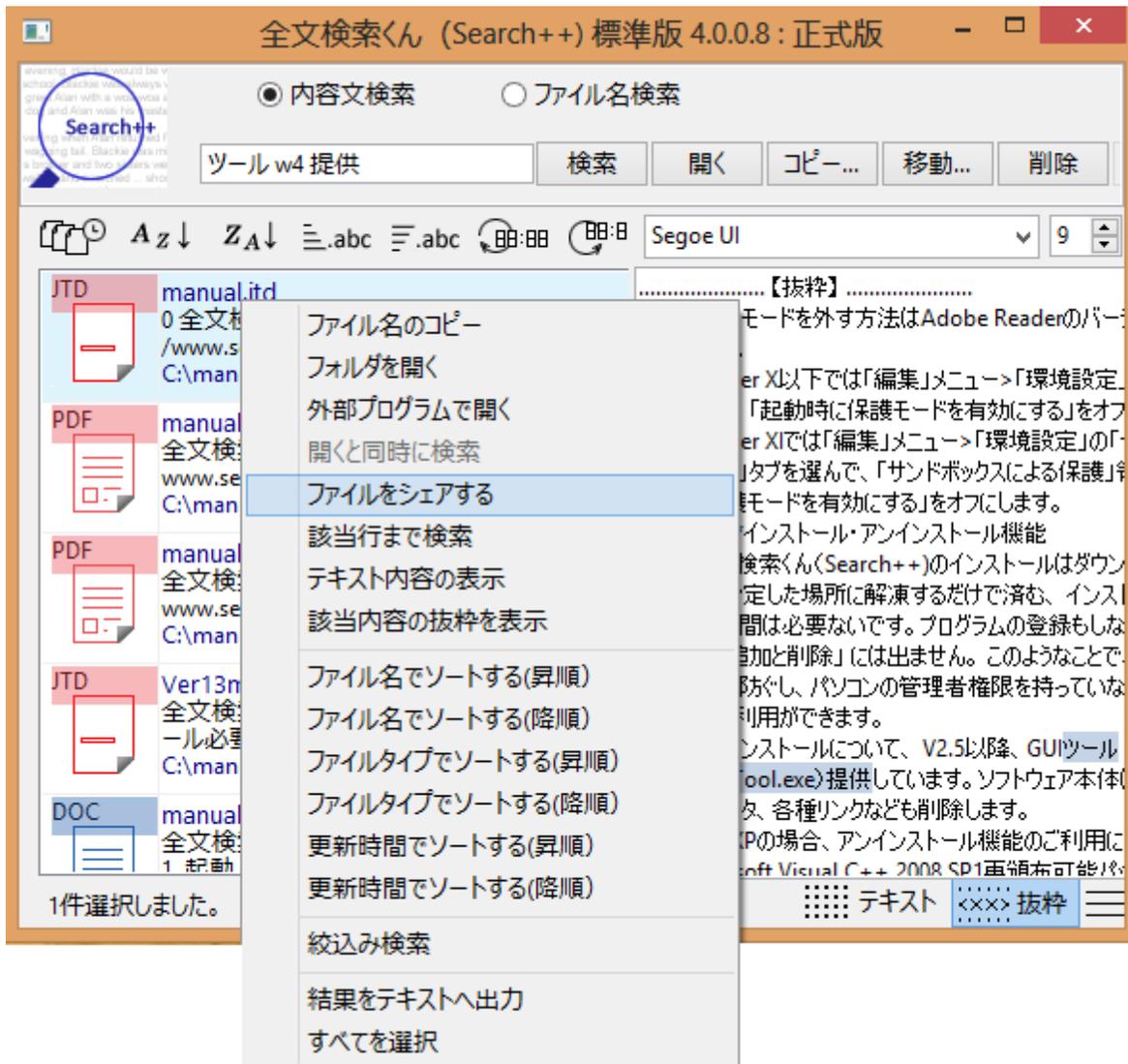


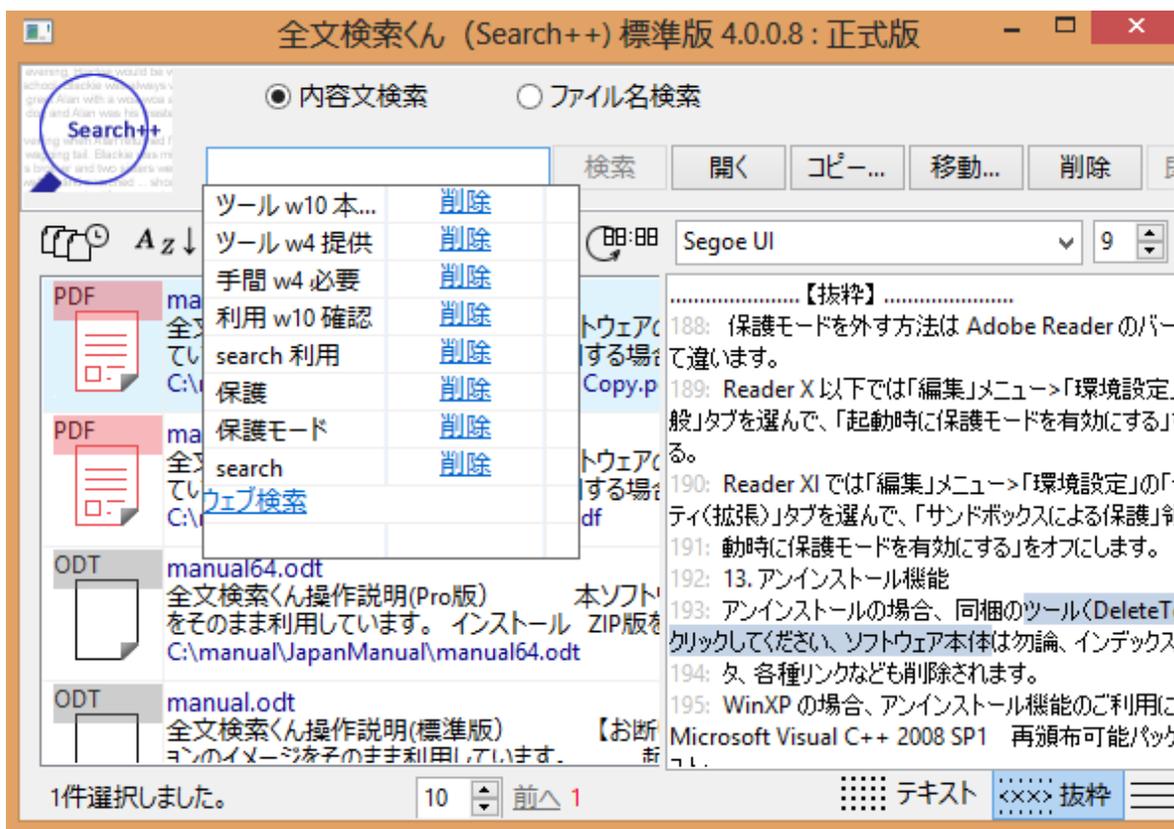
図 3 6 ファイルシェア機能

図 3 6 で示したように、検索結果ファイルを右クリックすれば、「ファイルをシェアする」ができます。このメニューをクリックすると、HTTPサーバが起動され、ファイルリンクはクリップボードにコピーされます。同じLAN上の他のユーザはリンクを貰えば、そのユーザのPCからファイルをダウンロードできます。

HTTPサーバの設定を確認するには、メイン画面から「その他機能」->「オプション」->「その他」タブをクリックしてください。

V4.0.0.8からHTTPサーバ機能を追加したため、全文検索くんを起動すると、OSからファイアウォールで警告が出された場合があります、その時、「アクセスを許可する」ボタンを押してください。

20. 検索キーの削除及びインターネット検索



検索キーの履歴を保存しています、検索テキストボックスをクリックすると、検索キーがリストされています。右側の削除リンクをクリックしたら、該当キーが削除されます、下部の「ウェブ検索」をクリックすると、テキストにある検索キーで（グーグル・ヤフー・Bing・ウィキペディア経由で）インターネットを検索します。

本ツールの全機能に対して、同じマシンで30日間無料で試すことが可能です。最初目の導入日は使用期間の開始日になります。

各種お問い合わせについては、support@searchplusplus.jpへお願いいたします。